

静岡市上下水道事業  
しずおか水ビジョン  
第4次中期経営計画

# 評価報告書

令和6年1月26日

静岡市上下水道事業経営協議会



令和6年1月26日

静岡市公営企業管理者  
森下 靖 様

静岡市上下水道事業経営協議会

会長

Handwritten signature of Shigeaki Suzuki in black ink.

しずおか水ビジョンの政策、施策及び事務事業の評価について（報告）

このことについて、本協議会として慎重に審議し、評価結果をとりまとめたので報告します。

## はじめに

本評価報告書は、上下水道局の基本構想である「しずおか水ビジョン」の実現に向けて掲げた「静岡市上下水道事業経営戦略」に基づき、具体的な事務事業を整理した「第4次中期経営計画（令和元年度～令和4年度）」における事務事業の令和4年度実績及び4年間の政策・施策評価について、これまで4回にわたり静岡市上下水道事業経営協議会（以下、「本協議会」という。）で審議を重ね、総意としてまとめたものです。

上下水道事業を取り巻く環境は、人口減少による料金等収入の減収が見込まれる一方、急速に進む施設の老朽化に伴う更新需要が増加するなど、今後も厳しい経営状況が続く見通しとなっています。

こうした中で、主要な政策等の全般を対象として実施する目標管理型の行政評価は、P D C Aサイクルを通じたマネジメントを向上させ、政策等の見直し、改善を目的とし、持続可能な上下水道事業の実現につなげていくとともに、市民への説明責任を果たす役割も期待されています。

「第4次中期経営計画」の計画期間4年間の総まとめとなる今回の評価では、上下水道局による自己評価に対して、おおむね妥当であると判断しましたが、例えば次のような意見、指摘がありました。

- ・一部の事務事業においては計画した成果指標に届かなかったものがあつたため、後年の計画に影響が出ることがないように、「今後の方向性」に示された内容の着実な実施と今後の対応が必要である。

- ・物価高騰や新型コロナウイルス感染症等の外的要因により、通常の実業実施自体が困難で成果を見込めないものがあつたため、従来の実業手法を見直し、将来を見据えた事業の改善・実施が必要である。

本評価報告書には上記以外の意見、指摘も記載していますので、これら本協議会からの意見、提言等を踏まえ、今年度からスタートした「第5次中期経営計画」を計画どおり推進することによって、適切な事業運営に努めることを期待します。

## 目次

第1章	上下水道事業行政評価制度の概要	1
1	趣旨	2
2	特徴	2
3	流れ	2
4	しずおか水ビジョンと第4次中期経営計画の位置付け	3
第2章	しずおか水ビジョンの政策評価	5
1	評価方法及び評価基準	6
2	評価結果のまとめ	7
3	各政策の評価結果	10
	政策1「危機管理を強化する」	10
	政策2「管・施設を効率的に運用する」	14
	政策3「環境への負荷を軽減する」	17
	政策4「お客さまサービスを向上させる」	20
	政策5「信頼される経営を確立する」	23
第3章	第4次中期経営計画の施策及び事務事業評価	27
1	第4次中期経営計画の施策の目的及び事務事業の実施目標	28
2	評価方法	34
3	評価基準	35
4	各施策の評価結果	36
(1)	1-(1) 施策名「重要な管・施設の地震対策」	36
(2)	1-(2) 施策名「浸水対策」	40
(3)	1-(3) 施策名「濁水対策」	43
(4)	1-(4) 施策名「災害時などの対応や体制の確立」	45
(5)	2-(1) 施策名「管・施設の老朽化対策」	48
(6)	2-(2) 施策名「施設の効率化」	53
(7)	3-(1) 施策名「水環境の保護・改善」	55
(8)	3-(2) 施策名「温暖化対策」	59
(9)	3-(3) 施策名「資源のリサイクル」	62
(10)	4-(1) 施策名「安全でおいしい水の安定的な供給」	64
(11)	4-(3) 施策名「接客・窓口サービスなどの充実」	68
(12)	4-(4) 施策名「市民参画の推進」	72
(13)	5-(1) 施策名「業務の効率化」	76
(14)	5-(2) 施策名「職員の技術習得」	79
(15)	5-(3) 施策名「財政の健全化」	82
(16)	5-(4) 施策名「新たな視点に立った上下水道事業の展開」	89

## 目 次

審議経緯	91
第7期 静岡市上下水道事業経営協議会 委員名簿	92

## 【第1章】

# 上下水道事業行政評価制度の概要

## 1 趣旨

静岡市上下水道事業の行政評価は、しずおか水ビジョンや上下水道事業経営戦略に基づく第4次中期経営計画の政策、施策及び事務事業の達成状況を評価、検証することで、PDCAサイクルにより、計画の目的の実現を図るものである。

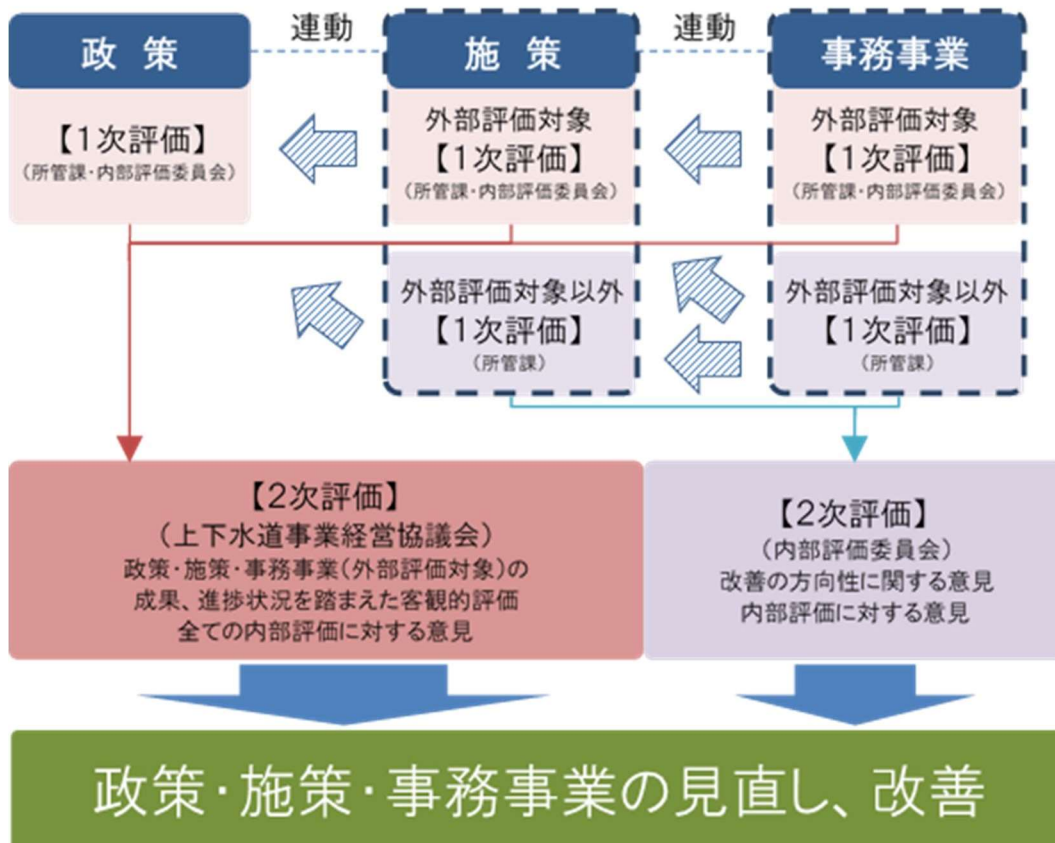
行政評価に当たっては、静岡市上下水道局の行政評価決定機関である静岡市上下水道事業内部評価委員会（以下、「内部評価委員会」という。）が実施した自己評価（1次評価）結果について、市当局から説明を受けたうえで、第三者機関として市民の視点からの外部評価（2次評価）を行った。

また、本協議会は、必要がある場合には、当該内部評価委員会に対し意見、提言を行い、計画のフォローアップと行政評価を通じたマネジメントの向上に関与するものである。

## 2 特徴

- (1) 行政評価は、第4次中期経営計画に掲げる政策、施策及び事務事業の3階層で評価する。
- (2) 政策評価は4年ごと、施策評価（複数年度評価）及び事務事業評価（単年度評価）は毎年度実施する。

## 3 流れ





#### 4 しずおか水ビジョンと第4次中期経営計画の位置付け

「しずおか水ビジョン」は、上下水道事業が一体となって長期的に目指す姿を示し、市民への約束として位置付けている。

このビジョンは、将来を見通した「基本構想」と、12年間の進むべき方向性を示した「上下水道事業経営戦略」、4年間（令和元年度～令和4年度）の具体的な事務事業を示した「第4次中期経営計画」で構成している。

「第4次中期経営計画」は、5つの政策、16の施策及び50の事務事業で構成・体系化され、「しずおか水ビジョン」で掲げた基本構想の実現に向けた成果指標を設定している。

##### 政策1 危機管理を強化する。

- (1) 重要な管・施設の地震対策
  - ①水道管の耐震化【水道】 挑戦
  - ②下水道管の耐震化【下水道】 挑戦
  - ③水道施設の耐震化【水道】
  - ④下水道施設の津波対策【下水道】
- (2) 浸水対策
  - ①雨水総合排水計画の更新【下水道】
  - ②内水ハザードマップの作成・公表【下水道】
  - ③雨水幹線・ポンプ場などの整備【下水道】
- (3) 湯水対策
  - ①水の相互運用【水道】
- (4) 災害時などの対応や体制の確立
  - ①事業継続計画(BCP)の充実・定着【共通】
  - ②災害時活動拠点の整備【水道】

##### 政策2 管・施設を効率的に運用する。

- (1) 重要な管・施設の老朽化対策
  - ①中長期計画の更新【共通】
  - ②水道管の更新【水道】
  - ③下水道管の改築【下水道】
  - ④水道施設の更新【水道】
  - ⑤下水道施設の改築【下水道】
  - ⑥水道管の漏水対策【水道】
  - ⑦下水道管の不明水対策【下水道】
- (2) 施設の効率化
  - ①施設の小規模化・統廃合【水道】 挑戦
  - ②水運用計画の策定【水道】

政策3 環境への負荷を軽減する。

- (1) 水環境の保護・改善
  - ①水源涵養林の維持管理【水道】
  - ②下水道計画区域内の整備【下水道】
  - ③水洗化戸数の増加【下水道】
  - ④浄化センターからの放流水質の安定的な維持【下水道】
- (2) 温暖化対策
  - ①自然エネルギーの活用【水道】
  - ②省エネルギー対策【共通】
- (3) 資源のリサイクル
  - ①リサイクル率の向上【下水道】

政策4 お客様サービスを向上させる。

- (1) 安全でおいしい水の安定的な供給
  - ①水道管の整備・充実【水道】
  - ②水道施設の整備・充実【水道】
  - ③直結給水サービスの拡大【水道】
  - ④水質管理・監視の充実【水道】
  - ⑤鉛製給水管の更新【水道】
- (3) 接客・窓口サービスなどの充実
  - ①料金支払いの利便性の向上【共通】 脱税
  - ②サービス体制の再構築【共通】
  - ③地域貢献【共通】
- (4) 市民参画の推進
  - ①静岡市上下水道事業経営協議会の開催【共通】 連携
  - ②協働事業の検討・実施【共通】
  - ③積極的な広報活動【共通】
  - ④広聴機能の充実【共通】

※「(2)簡易水道事業などとの統合」は、第3次中期経営計画期間内で事業が完了したため、掲載を省略しています。

政策5 信頼される経営を確立する。

- (1) 業務の効率化
  - ①機能的な組織づくり【共通】
  - ②上下水道の資産・資源の有効活用【共通】
  - ③マッピングシステムの運用拡大【水道】
- (2) 職員の技術習得
  - ①各種研修の充実【共通】
  - ②技術継承の仕組みづくり【共通】
- (3) 財政の健全化
  - ①新たな収入の確保【共通】
  - ②企業債残高の適正な管理【共通】 脱税 連携
  - ③財政計画の定期的な見直し【共通】
  - ④適正な債権管理【共通】
  - ⑤収納率の向上【共通】
- (4) 新たな視点に立った上下水道事業の展開
  - ①国際協力に係る情報収集と実施などの検討【共通】
  - ②広域連携の検討【共通】 連携

## 【第2章】

# しずおか水ビジョンの政策評価

令和元年度から令和4年度までの4か年

## 1 評価方法及び評価基準

### ● 自己評価（1次評価）

自己評価（1次評価）とは、第4次中期経営計画に掲げた施策及び事務事業について、それぞれの目標に対する達成度を踏まえ、令和元年度から令和4年度までの4年間に於ける政策の実現状況を、上下水道局の行政評価決定機関である内部評価委員会において、自己評価したものである。

自己評価では、過去3年間と今年度分に当たる施策自己評価を踏まえ、次のとおり3段階評価を用いて、総合的・体系的な評価結果をまとめた。

評価区分	内容	評価の視点
A	政策の目的が達成されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しずおか水ビジョン及び第4次中期経営計画策定時に立てた政策が一定程度実現された状態にある。</li> <li>・実績や事業費に見合った十分な成果が出ている。</li> </ul>
B	政策の目的があまり達成されていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しずおか水ビジョン及び第4次中期経営計画策定時の政策が実現されているとはいえない状態にある。</li> <li>・実績や事業費に比較して成果がやや低い。</li> </ul>
C	政策の目的がまったく達成されていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しずおか水ビジョン及び第4次中期経営計画策定時に立てた政策が全く実現されていない。</li> <li>・実績や事業費に見合った成果が出ていない。</li> </ul>

### ● 外部評価（2次評価）

外部評価（2次評価）とは、内部評価委員会の実施した自己評価結果を、協議会が専門的かつ客観的な第三者の視点から評価するもので、事業の充実や継続、見直しの根拠として活用するとともに、評価の透明性の確保と市民への説明責任を果たしているとするものである。

外部評価では、自己評価と同様に「A～C」の3段階評価に加え、実施した全ての政策について、「評価の総括」として、重要な事項等をまとめることとし、併せて「評価できる点」、「改善すべき点」、「今後の方向性」等の視点から客観的な評価を実施した。

項目	内容
評価の総括	当該政策の評価として、特に重要な事項について総括する。
評価できる点	成果が十分に表れている取組など、評価できる点についてまとめる。
改善すべき点	<p>成果が十分に表れていない取組など、改善が必要だと思われる点についてまとめる。</p> <p>また、成果が一定程度表れている取組では、更に工夫を重ねる必要があると思われる点についてまとめる。</p>
今後の方向性	今後、政策目的を達成するために、どのように取り組むべきか、その方向性をまとめる。

2 評価結果のまとめ

● 第4次静岡市中期経営計画（令和元年度～令和4年度）政策評価一覧表

1 危機管理を強化する。			自己評価																A	
			外部評価																	
政策評価 R1-4			元年度				2年度				3年度				4年度					
施策名	主要事業	事務事業名	施策 R1		事務事業		施策 R1-2		事務事業		施策 R1-3		事務事業		施策 R1-4		事務事業			
			自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価		
			(1) 重要な管・施設の地震対策	主	① 水道管の耐震化	A	A	a	a	B	B	b	b	A	A	a	a	B	B	c
主	② 下水道管の耐震化	A		A	a	a	B	B	a	a	A	A	a	a	B	B	a	a		
主	③ 水道施設の耐震化	A		A	a	a	B	B	a	a	A	A	a	a	B	B	b	b		
	④ 下水道施設の津波対策	A		A	a	/	B	B	a	/	A	A	a	/	B	B	c	c		
(2) 浸水対策		① 雨水総合排水計画の更新	B	B	c	c	A	A	a	/	A	A	a	/	A	A	c	c		
		② 内水ハザードマップの作成・公表	B	B	s	/	A	A	s	/	A	A	s	/	A	A	a	/		
	主	③ 雨水幹線・ポンプ場などの整備	B	B	b	b	A	A	a	a	A	A	b	b	A	A	a	a		
(3) 渇水対策	主	① 水の相互運用	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/		
(4) 災害時などの対応や体制の確立		① 事業継続計画（BCP）の充実・定着	A	/	a	/	A	A	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/		
	主	② 災害時活動拠点の整備	A	/	a	/	A	A	a	a	A	/	a	/	A	/	a	/		
2 管・施設を効率的に運用する。			自己評価																B	
政策評価 R1-4			外部評価																	
施策名	主要事業	事務事業名	元年度				2年度				3年度				4年度					
			施策 R1		事務事業		施策 R1-2		事務事業		施策 R1-3		事務事業		施策 R1-4		事務事業			
			自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価		
(1) 管・施設の老朽化対策		① 中長期計画の更新	A	A	a	/	B	B	a	/	B	B	a	/	B	B	a	/		
	主	② 水道管の更新	A	A	a	a	B	B	b	b	B	B	b	b	B	B	c	c		
	主	③ 下水道管の改築	A	A	a	a	B	B	a	a	B	B	a	a	B	B	a	a		
	主	④ 水道施設の更新	A	A	a	a	B	B	a	a	B	B	a	a	B	B	b	b		
	主	⑤ 下水道施設の改築	A	A	s	s	B	B	s	s	B	B	a	a	B	B	a	a		
	主	⑥ 水道管の漏水対策	A	A	a	a	B	B	a	a	B	B	s	s	B	B	s	s		
		⑦ 下水道管の不明水対策	A	A	a	/	B	B	a	/	B	B	a	/	B	B	a	/		
(2) 施設の効率化	主	① 施設の小規模化・統廃合	A	/	s	/	A	A	a	a	A	/	a	/	A	/	a	/		
		② 水運用計画の策定	A	/	a	/	A	A	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/		

【第2章】しずおか水ビジョンの政策評価

3 環境への負荷を軽減する。			自己評価															
			外部評価															
政策評価			B															
R1-4			B															
施策名	主要事業	事務事業名	元年度				2年度				3年度				4年度			
			施策 R1		事務事業		施策 R1-2		事務事業		施策 R1-3		事務事業		施策 R1-4		事務事業	
			自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価
(1) 水環境の保護・改善	主	① 水源涵養林の維持管理	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/
		② 下水道計画区域内の整備			a	/			a	/			a	/			a	/
		③ 水洗化戸数の増加			a	/			a	/			a	/			a	/
		④ 浄化センターからの放流水質の安定的な維持			a	/			a	/			a	/			a	/
(2) 温暖化対策	主	① 自然エネルギーの活用	B	B	b	b	B	B	b	b	C	C	b	b	C	/	b	b
		② 省エネルギー対策	a	a	b	b	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c
(3) 資源のリサイクル	主	① リサイクル率の向上	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/

4 お客さまサービスを向上させる。			自己評価																	
			外部評価																	
政策評価			A																	
R1-4			A																	
施策名	主要事業	事務事業名	元年度				2年度				3年度				4年度					
			施策 R1		事務事業		施策 R1-2		事務事業		施策 R1-3		事務事業		施策 R1-4		事務事業			
			自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価		
(1) 安全でおいしい水の安定的な供給	主	① 水道管の整備・充実	A	/	a	/	A	/	a	/	A	A	b	b	A	/	a	/		
		② 水道施設の整備・充実			a	/			a	/			a	/			a	/		
		③ 直結給水サービスの拡大			a	/			s	/			a	/			a	/		
		④ 水質管理・監視の充実			a	/			a	/			a	/			a	/		
		⑤ 鉛製給水管の更新			a	/			a	/			a	/			a	/		
(3) 接客・窓口サービスなどの充実	主	① 料金支払いの利便性の向上	A	/	a	/	B	B	a	/	B	B	a	/	B	/	a	/		
		② サービス体制の再構築			a	/			a	/			a	/			a	/		
		③ 地域貢献			a	/			c	c			c	c			c	c	c	c
(4) 市民参画の推進	主	① 静岡市上下水道事業経営協議会の開催	A	/	a	/	A	/	a	/	B	B	a	/	A	/	a	/		
		② 協働事業の検討・実施			a	/			a	/			c	c			s	/		
		③ 積極的な広報活動			a	/			a	/			a	/			a	/	s	/
		④ 広聴機能の充実			a	/			a	/			a	/			a	/	a	/

【第2章】しずおか水ビジョンの政策評価

5 信頼される経営を確立する。			自己評価															
			外部評価															
政策評価 R1-4			元年度				2年度				3年度				4年度			
施策名	主要事業	事務事業名	施策 R1		事務事業		施策 R1-2		事務事業		施策 R1-3		事務事業		施策 R1-4		事務事業	
			自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	自己評価	外部評価
(1) 業務の効率化	主	① 機能的な組織づくり	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/
		② 上下水道の資産・資源の有効活用	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/
		③ マッピングシステムの運用拡大	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/
(2) 職員の技術習得	主	① 各種研修の充実	A	A	a	a	B	B	b	b	B	B	b	b	B	/	b	b
	主	② 技術継承の仕組みづくり	A	A	a	a	B	B	a	/	B	B	a	/	B	/	a	/
(3) 財政の健全化	主	① 新たな収入の確保	A	A	a	/	A	A	a	/	B	B	c	c	B	/	b	b
		② 企業債残高の適正な管理	A	A	a	a	A	A	a	a	B	B	a	a	B	/	a	a
		③ 財政計画の定期的な見直し	A	A	a	/	A	A	a	/	B	B	a	/	B	/	a	/
	主	④ 適正な債権管理	A	A	s	/	A	A	a	/	B	B	a	a	B	/	a	/
		⑤ 収納率の向上	A	A	a	a	A	A	a	a	B	B	a	a	B	/	a	a
(4) 新たな視点に立った上下水道事業の展開	主	① 国際協力に係る情報収集と実施などの検討	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/
		② 広域連携の検討	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/	A	/	a	/

《外部評価対象》

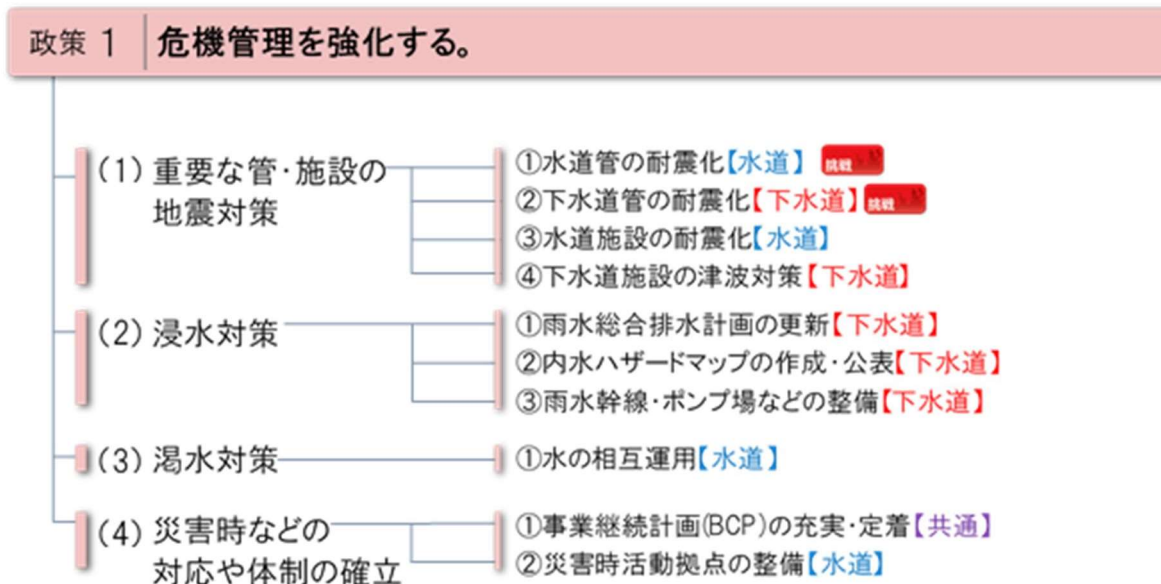
事務事業数	
11	戦略的に重要なもの
1	新たな取組等実施したもの
4	自己評価が「A (a)」未満のもの
2	評価対象としたいもの

## 3 各政策の評価結果

## 政策1 危機管理を強化する

目的	想定される巨大地震、浸水、渇水などの災害が発生した場合においても事業が継続できるよう、被害を最小限にとどめるための施設の整備や、早期復旧が可能となる体制の確立を行うことで危機管理を強化します。
----	--

## 【政策の体系】



## 1 自己評価結果

## ■政策自己評価

4か年評価	A：政策の目的が達成されている
理由	この政策を構成する「重要な管・施設の地震対策」、「浸水対策」、「渇水対策」及び「災害時などの対応や体制の確立」の4つの施策のうち、「浸水対策」、「渇水対策」及び「災害時などの対応や体制の確立」は、施策の目的を達成できたが、「重要な管・施設の地震対策」は、施策の目的があまり達成できなかった。以上のことから、想定される巨大地震、浸水、渇水などの災害が発生した場合においても事業が継続できるよう、被害を最小限にとどめるための施設の整備や、早期復旧が可能となる体制の確立を行うことで危機管理を強化する政策の目的が達成できているため、評価は「A」とした。



## ■各施策自己評価

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
(1) 重要な管・ 施設の地震 対策 P 36～P 39	B	<p>重要な管・施設の地震対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、1つの事務事業が計画どおりの実施となった。しかし、3つの事務事業は計画を下回り、そのうち「①水道管の耐震化」は資材調達の遅れ、「④下水道施設の津波対策」は関係課協議に時間を要したことにより「c」評価となった。</p> <p>以上のことから、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指す施策の目的が達成されているとはいえないため、令和4年度の施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
(2) 浸水対策 P 40～P 42	A	<p>浸水対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する3つの事務事業のうち、2つの事務事業は計画どおりの実施となった。</p> <p>しかし、「①雨水総合排水計画の更新」の事務事業は、令和4年台風15号により追加作業が必要となり、基本計画策定に遅れが生じ、「c」評価となっている。</p> <p>以上のことから、浸水被害の軽減を図り、危機管理の強化を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度の施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
(3) 渇水対策 P 43～P 44	A	<p>渇水対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度も施策を構成する事務事業「水の相互運用」が計画どおりの実施となり引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、渇水時においても安定した給水を確保できる体制を確立することで、危機管理の強化を目指す施策の目的が達成されているため、「A」評価とした。</p>
(4) 災害時など の対応や体 制の確立 P 45～P 47	A	<p>災害時などの対応や体制の確立について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、成果も出ている。</p> <p>以上のことから、災害等発生時の行政と市民・民間との連携により、</p> <p>双方の協力体制を強化し、また、災害発生時の活動拠点を整備し、より迅速な復旧活動を可能にすることで、危機管理の強化を目指す施策</p>

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
		<p>の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p> <p>しかし、「台風第15号に係る災害対応検証」では、市民や自治会が求める情報を適切なタイミングで届けることができなかったことや、給水拠点の周知不足・混雑発生などを課題として整理している。</p> <p>これらを踏まえ、市民が利用できる情報ツールや、給水拠点等を活用した効果的な情報発信の検討を行う。</p> <p>さらに、自主防災組織による貯水槽の使用訓練など、目的別訓練の質の向上を行い、事務事業の取組改善につなげ、施策目的の達成に向けて一層努めていきたい。</p>

## 2 外部評価結果

### ◆評価の総括

A	政策の目的が達成されている
	<p>政策を構成する4つの施策のうち、「浸水対策」、「湧水対策」及び「災害時などの対応や体制の確立」は、施策の目的が達成されている。一方、「重要な管・施設の地震対策」は、資材価格の高騰などにより工事の進捗に影響があった。</p> <p>4つの施策のうち、3つの施策は「A」評価を達成することができ、また未達成の「重要な管・施設の地震対策」についても着実に事務事業を推進していることから、「危機管理を強化する」政策の目的が一定程度実現されていると判断し、「A」評価とする。</p>

### ◆評価できる点・改善すべき点・今後の方向性

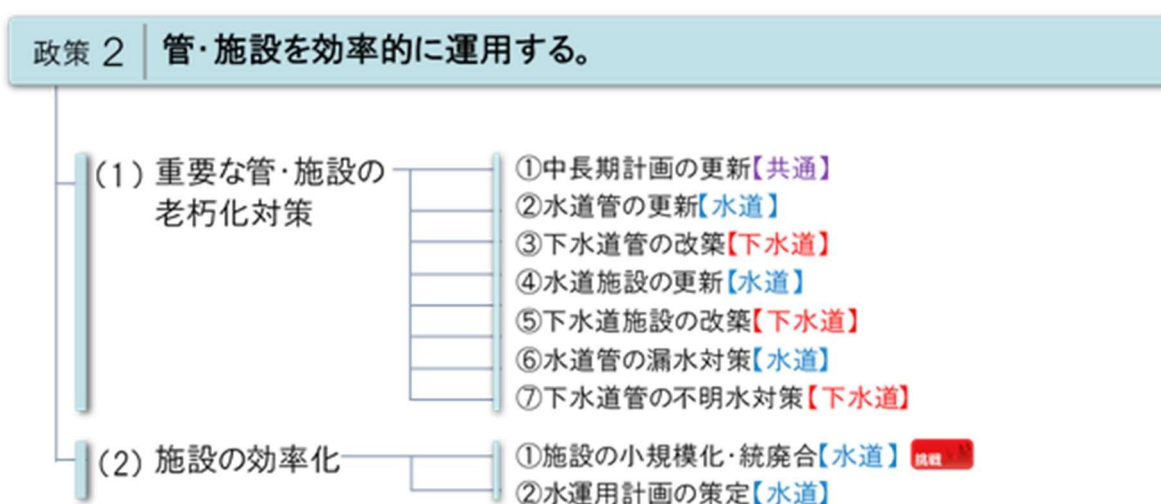
評価 できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理に対する意識も高く、「浸水対策」、「湧水対策」、「災害時などの対応や体制の確立」は着実に実行されている。</li> <li>・「内水ハザードマップの作成・公表」の事務事業において目標達成をしている点は、市民の理解を深め、自助・共助意識の向上につながっており、評価できる。</li> </ul>
改善 すべき点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が達成できていない「重要な管・施設の地震対策」については、市民の命や生活が守られるよう、これまで以上にスピード感を持って取り組む必要がある。</li> <li>・一部の事務事業の目標や施策の目的が達成できなかった主な原因を資材調達遅れや入札不調等の影響としているが、今後、工事の遅れを繰り返さないよう、可能な限り事前の対策を計画に盛り込むなど工夫が必要である。</li> </ul>

今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>・災害発生時には被害を最小限にとどめ、迅速な活動が可能になるように、関係機関と連携し上下水道の機能を継続するための検討が必要である。</li><li>・市民が、安全に対する意識を向上させ、人命最優先の行動をとるために、今後も内水ハザードマップの積極的PRに努める必要がある。</li></ul>
------------	---

## 政策2 管・施設を効率的に運用する

目的	お客さまが将来にわたって上下水道を使い続けられるよう、管・施設の改築を行い、水需要に即した施設規模の適正化に努めることで、管・施設を効率的に運用します。
----	--

### 【政策の体系】



### 1 自己評価結果

#### ■政策自己評価

4か年評価	<b>B：政策の目的があまり達成されていない</b>
理由	この政策を構成する「管・施設の老朽化対策」及び「施設の効率化」の2つの施策のうち、「施設の効率化」は、施策の目的を達成できたが、「管・施設の老朽化対策」は、施策の目的があまり達成できなかった。以上のことから、お客さまが将来にわたって上下水道を使い続けられるよう、管・施設の改築を行い、水需要に即した施設規模の適正化に努めることで、管・施設を効率的に運用していく政策の目的があまり達成できていないため、評価は「B」とした。

## ■各施策自己評価

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
(1) 管・施設の老朽化対策 P48～P52	B	<p>管・施設の老朽化対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する7つの事務事業のうち、4つの事務事業が計画どおりの実施で、1つの事務事業が計画を上回る実施となり、これらの事務事業は引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「②水道管の更新」は入札不調により、当該年度の計画値が達成できず「c」評価となり、「④水道施設の更新」は機器の納期遅延により、「b」評価となった。</p> <p>以上のことから、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応することで、管・施設の効率的な運用を目指す施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
(2) 施設の効率化 P53～P54	A	<p>施設の効率化について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価となった。</p> <p>令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で、計画どおりの実施となり、引き続き成果も出ている。</p> <p>以上のことから水需要に即した施設規模の適正化に努め、維持管理経費の軽減を図っていくことで、管・施設の効率的な運用を目指す施策の成果が十分に出ているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>

## 2 外部評価結果

## ◆評価の総括

B	政策の目的があまり達成されていない
<p>政策を構成する2つの施策のうち、「管・施設の老朽化対策」は、資材価格の高騰や工事の遅れの影響により、施策の目的があまり達成できなかった。一方、「施設の効率化」は、4年間の目的が達成されている。</p> <p>「管・施設の老朽化対策」においては施策の目的を達成できていない状況が継続しているため、「B」評価とする。</p>	

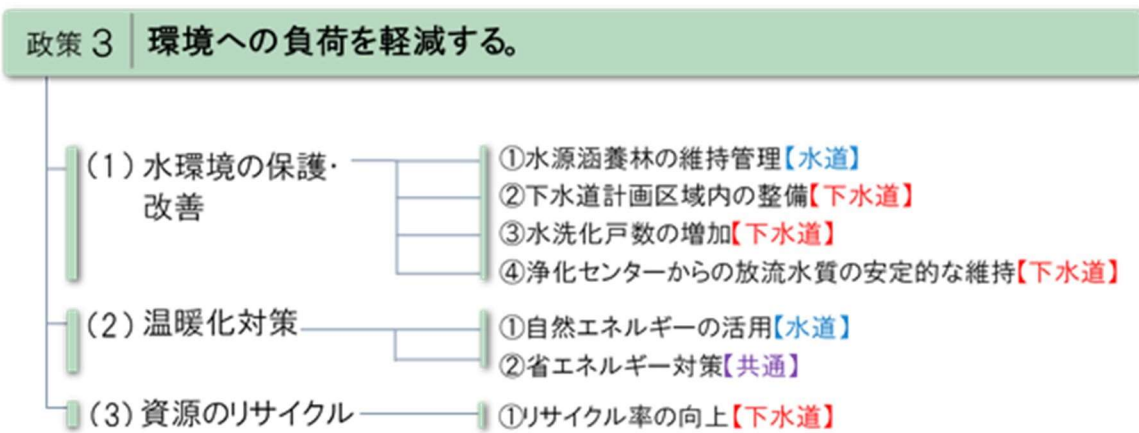
## ◆評価できる点・改善すべき点・今後の方向性

評価 できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下水道における「管・施設の老朽化対策」では、半導体や部品類の流通、供給が滞っている中で最大限の努力がされていることは、評価できる。</li> <li>・ 「施設の効率化」についても、施策を構成する全ての事務事業で、計画どおりの実施となり、引き続き成果も出ている。</li> </ul>
改善 すべき点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少等に伴う財政状況を勘案し、水需要に則した施設規模の適正化に努めてほしい。</li> <li>・ 「水道管の更新」については、入札不調等の原因を調査検討し、計画的に進められるよう改善が望まれる。</li> <li>・ 市民は、上下水道ともに、施設が老朽化している状況をほとんど認知していないと考えられるため、これまで以上に積極的な情報発信が必要である。</li> </ul>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上下水道ともに施設の規模については、中長期計画の検証・更新を実施していく中で、見直して行ってほしい。</li> <li>・ 入札不調対策など発注事務改善や確実な工事の工程管理を行うことや、物価上昇や人手不足への対策検討を進めることで更新工事の確実な実施に努めてほしい。</li> </ul>

## 政策3 環境への負荷を軽減する

目的	上下水道に係る水環境を守り、自然エネルギーの活用や資源のリサイクルの推進等に取り組むとともに、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷を軽減します。
----	--

### 【政策の体系】



### 1 自己評価結果

#### ■政策自己評価

4か年評価	B：政策の目的があまり達成されていない
理由	この政策を構成する「水環境の保護・改善」、「温暖化対策」及び「資源のリサイクル」の3つの施策のうち、「水環境の保護・改善」及び「資源のリサイクル」は、施策の目的が達成できたが、「温暖化対策」は、施策の目的が達成できなかった。以上のことから、上下水道に係る水環境を守り、自然エネルギーの活用や資源のリサイクルの推進等に取り組むとともに、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷を軽減していく政策の目的があまり達成できていないため、評価は「B」とした。

## ■各施策自己評価

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
(1) 水環境の保護・改善 P55～P58	A	<p>水環境の保護・改善について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、上下水道に係る水環境の保護・改善を図り、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
(2) 温暖化対策 P59～P61	C	<p>温暖化対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「C」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する事務事業のうち「自然エネルギーの活用」は令和3年度に引き続き計画を下回り、「省エネルギー対策」についても、令和3年度同様に目標を顕著に下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的について、達成されていないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「C」評価とした。</p>
(3) 資源のリサイクル P62～P64	A	<p>資源のリサイクルについて、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価となり、令和4年度についても、施策を構成する事務事業「リサイクル率の向上」は、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、再利用が可能な資源について、積極的にリサイクルを行うとともに、下水汚泥については、エネルギー資源として活用するなどのリサイクル率を向上させ、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的が達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>



## 2 外部評価結果

## ◆評価の総括

<b>B</b>	<b>政策の目的があまり達成されていない</b>
<p>政策を構成する3つの施策のうち、「温暖化対策」は、施設の稼働等の影響により、施策の目的が達成できなかった。一方「水環境の保護・改善」及び「資源のリサイクル」は、4年間の目的が達成されている。「温暖化対策」においては施策の目的を達成できていない状況が継続しているため、「B」評価とする。</p> <p>なお、一定の政策の目標は達成しているとして、「A」評価とする意見もあった。</p>	

## ◆評価できる点・改善すべき点・今後の方向性

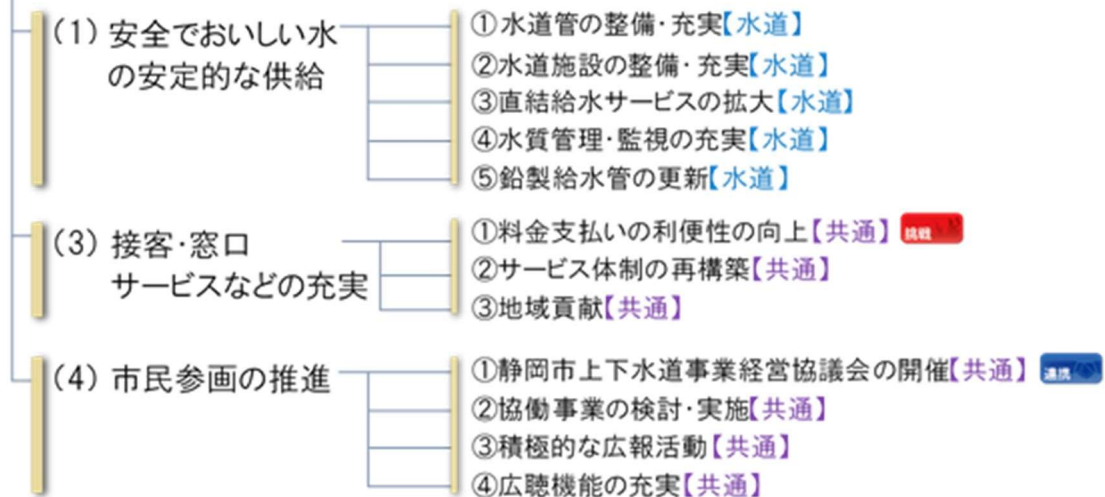
評価 できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「水環境の保護・改善」と「資源のリサイクル」については、設定した目標を過去4年間達成し、環境負荷の低減に取り組んでいる点は、評価できる。</li> <li>・とりわけ、「水環境の保護・改善」については、どの事務事業においても安定して管理と維持が行われていることを評価する。</li> </ul>
改善 すべき点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「省エネルギー対策」については事務事業の具体的な取組の見直しが課題と考えられる。</li> <li>・上下水道の事業運営が、自然エネルギーの活用など、環境に配慮していることについて、市民への周知が不足していると考えられるため、積極的に広報をしていく必要がある。</li> </ul>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然エネルギーの活用」、「省エネルギー対策」などについて、目標を達成できない状況が続いているが、目標自体の変更を検討してほしい。</li> <li>・「水源涵養林の維持管理」については、引き続き積極的な取組を期待する。</li> </ul>

## 政策4 お客さまサービスを向上させる

目的	<p>お客さまに対して安全でおいしい水を安定的に供給し、サービスの均一化を図るために、市営簡易水道との統合を進めます。また、多様化・高度化するお客さまのニーズを的確に把握し、迅速に対応します。そして、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識していただけるよう、わかりやすい内容による積極的な広報活動に努めることでお客さまサービスを向上させます。</p>
----	--

### 【政策の体系】

#### 政策4 お客様サービスを向上させる。



※「(2)簡易水道事業などとの統合」は、第3次中期経営計画期間内で事業が完了したため、掲載を省略しています。

## 1 自己評価結果

## ■政策自己評価

4か年評価	A：政策の目的が達成されている
理由	この政策を構成する「安全でおいしい水の安定的な供給」、「接客・窓口サービスなどの充実」及び「市民参画の推進」の3つの施策のうち、「安全でおいしい水の安定的な供給」及び「市民参画の推進」は施策の目的が達成できたが、「接客・窓口サービスなどの充実」は施策の目的があまり達成できなかった。以上のことから、お客さまに対して安全でおいしい水を安定的に供給するとともに、サービスの均一化を図るための市営簡易水道との統合、多様化・高度化するお客さまニーズの的確な把握と迅速な対応、様々な関係者との連携や信頼関係のもとでの事業推進、そして、わかりやすい内容による積極的な広報活動に努めることでお客さまサービスを向上させていく政策の目的が達成できているため、評価は「A」とした。

## ■各施策自己評価

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
(1) 安全でおいしい水の安定的な供給 P64～P67	A	安全でおいしい水の安定的な供給について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。 令和4年度は、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、成果が出ている。 以上のことから、給水区域内の水道管や水道施設の整備・充実を図るとともに、水質管理・監視体制の充実、計画的な機器の更新を行い、安全でおいしい水を安定的に供給することを通じて、お客さまサービスの向上を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。
(3) 接客・窓口サービスなどの充実 P68～P71	B	接客・窓口サービスなどの充実について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。 令和4年度は、施策を構成する3つの事務事業のうち2つの事務事業は計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。 しかし「地域貢献」の事務事業は、一部事業内容の変更により、実施回数や参加職員数に改善が見られたが、令和3年度に引き続き計画を大きく下回る実施となった。 以上のことから、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、お客さまサービスの向上を目指す施策の目的について一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
(4) 市民参画の推進 P72～P75	A	<p>市民参画の推進について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、2つの事務事業は計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ており、2つの事務事業は、計画を上回る成果となった。</p> <p>以上のことから、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえよう、積極的かつわかりやすい内容の広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すという施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>

## 2 外部評価結果

### ◆評価の総括

A	政策の目的が達成されている
<p>政策を構成する3つの施策のうち、「安全でおいしい水の安定的な供給」及び「市民参画の推進」は、4年間の目的が達成されている。一方、「接客・窓口サービスなどの充実」は、コロナ禍や台風15号災害対応による影響を受けた。</p> <p>「お客さまサービスを向上させる」という政策の目的が一定程度実現されていると総合的に判断し、「A」評価とする。</p>	

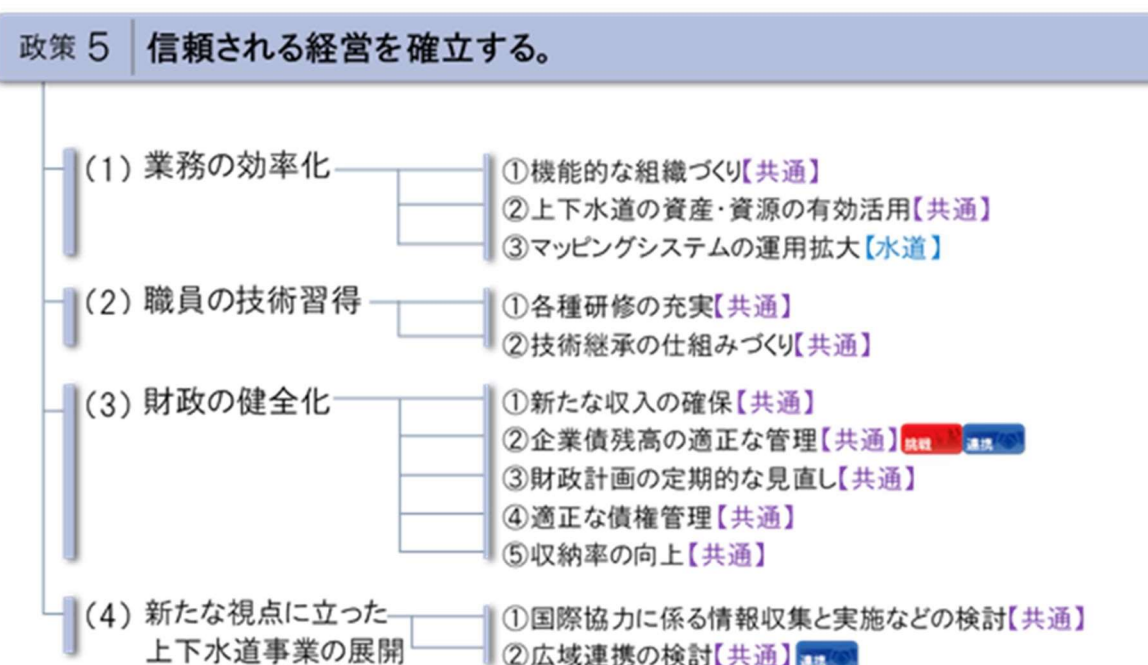
### ◆評価できる点・改善すべき点・今後の方向性

評価 できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全でおいしい水の安定的な供給」において「A」評価を維持し、引き続き目標が達成されている点を評価したい。</li> <li>・「市民参画の推進」においては、令和3年度に「C」だった評価を令和4年度には「S」の成果を得るまでに努力された点は、評価できる。</li> </ul>
改善 すべき点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「接客・窓口サービスなどの充実」特に「地域貢献」については活動実績が増えているものの、参加職員実績が減少傾向にある。</li> <li>・自治会等の地域団体を活用するなど、広報の方法の見直しを検討してほしい。</li> </ul>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全でおいしい水の安定的な供給」は、水道事業の本来の使命であり、今後も徹底して行ってほしい。</li> <li>・地域貢献と広報活動については、SNS等を活用し上下水道局の取り組みを市民に広く伝えることを期待する。</li> </ul>

## 政策5 信頼される経営を確立する

目的	<p>経営を取りまく環境が厳しさを増す中、事業者の責務として将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、より効率的・効果的に各政策を実施し、新規事業については、経営状況を勘案し、可否を適切に判断します。</p> <p>また、職員数の減少による上下水道サービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで信頼される経営を確立します。</p>
----	---

### 【政策の体系】



### 1 自己評価結果

#### ■政策自己評価

4か年評価	B：政策の目的があまり達成されていない
理由	<p>この政策を構成する「業務の効率化」、「職員の技術習得」、「財政の健全化」及び「新たな視点に立った上下水道事業の展開」の4つの施策のうち、「業務の効率化」及び「新たな視点に立った上下水道事業の展開」は施策の目的が達成できたが、「職員の技術習得」及び「財政の健全化」は施策の目的があまり達成できなかった。以上のことから、将来にわたって安定的に事業を継続するとともに、より効率的・効果的な各政策の実施、機能的な組織づくりと人材育成、知識・技術の継承等を推進することで信頼される経営を確立していく政策の目的があまり達成できていないため、評価は「B」とした。</p>

## ■各施策自己評価

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
(1) 業務の効率化 P76～P78	A	<p>業務の効率化について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、業務の見直しや組織再編により、適正な職員数で事業を実施するとともに、必要な技術を残しながら、業務委託の活用などの民間手法を取り入れ、人員の最適化に努めることで、信頼される経営の確立を目指す施策の目的が達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
(2) 職員の技術習得 P79～P81	B	<p>職員の技術習得について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する2つの事務事業のうち、「技術継承の仕組みづくり」の事務事業は、計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「各種研修の充実」の事務事業は、一部事業内容の変更により、内部・外部研修とも一人当たりの受講時間数に改善が見られたが、令和3年度に引き続き計画を下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指す施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度 施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
(3) 財政の健全化 P82～P88	B	<p>財政の健全化について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する5つの事務事業のうち、4つの事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし、令和3年度評価が「c」評価であった「新たな収入の確保」の事務事業は、新たな取組により料金・使用料以外の収益増となったものの計画値を下回る結果となった。</p> <p>以上のことから、未収金を減らし水道料金・下水道使用料の増収を図り、新たな財源の確保、企業債残高の適正管理及び経常的な費用の</p>

施策名	R4 事業の評価 (自己評価・4か年評価)	評価の理由
		圧縮に努めることで、信頼される経営の確立を目指すという施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。
(4) 新たな視点に立った上下水道事業の展開 P 89～P 90	A	<p>新たな視点に立った上下水道事業の展開について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、国際協力に係る情報収集を進め、対応可能な支援などの検討を行うとともに、広域化による事業メリット、連携の枠組み等の検討を進め、信頼される経営の確立を目指す施策の目的が達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>

## 2 外部評価結果

### ◆評価の総括

B	政策の目的があまり達成されていない
<p>政策を構成する4つの施策のうち、「職員の技術習得」及び「財政の健全化」は、施策の目的があまり達成できなかった。一方、「業務の効率化」及び「新たな視点に立った上下水道事業の展開」は、4年間の目的が達成されている。「職員の技術習得」及び「財政の健全化」においては施策の目的を達成できていない状況が継続しているため、「B」評価とする。</p> <p>なお、安定経営の面から重要な企業債残高が適正に管理されており、「A」評価とした意見もあった。</p>	

### ◆評価できる点・改善すべき点・今後の方向性

評価 できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「業務の効率化」など、前向きな取組を見ることができ、信頼される経営の確立への貢献が認められる。</li> <li>・「財政の健全化」では、企業債残高の適正な管理に努めた点や、新たな収入の確保の道を開拓できた点は評価できる。</li> <li>・水道料金、下水道使用料の収納率の成果ならびに受益者負担金の収納率成果が出ている点は、評価できる。</li> </ul>
改善 すべき点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道の業務は多岐にわたり、専門的知識や技能を有する職員の適切な配置が不可欠となるため、職員の育成や技術の継承は、これまで以上に積極的に行う必要がある。さらに、情報技術の導入などについても、積極的な対応を打っていくことが必要ではないか。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>・改築や更新などの投資計画を健全に行うためにも、引き続き企業債残高を適正に管理してほしい。</li><li>・将来に向けた投資と財政の安定を両立するためには、これまで以上に支出を抑制する工夫が必要である。</li><li>・研修のオンライン・オンデマンド化など新たな技術や考え方（DX）を積極的に取り入れる必要があると考える。</li></ul>
--------	---



## 【第3章】

### 第4次中期経営計画の 施策及び事務事業評価

令和元年度から令和4年度までの4か年

1 第4次中期経営計画の施策の目的及び事務事業の実施目標

政策	施策名	施策目的	事務事業名	実施目標
<b>政策1 危機管理を強化する。</b>				
<b>施策(1) 重要な管・ 施設の地震 対策</b>		この施策は、「水道管の耐震化」、「下水道管の耐震化」、「水道施設の津波対策」の4つの事務事業により、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指すものである。	①水道管の耐震化 【水道】	「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、基幹管路（重要な水道管）307.4kmのうち、耐震化済の水道管延長が、平成30年度末は116.4kmですが、これを令和4年度末までに9.0km実施し、新規布設分9.0kmと併せて134.4kmの耐震化を完了します。
			②下水道管の耐震化 【下水道】	「静岡市下水道総合地震対策計画」に基づき、耐震性能の確認、各種対策の実施により耐震化した下水道管延長は、重要な下水道管474.2kmのうち、平成30年度末で247.9kmですが、これを令和4年度末までに29.3km延伸させ、277.2kmの耐震化を完了します。
			③水道施設の耐震化 【水道】	配水池耐震診断の結果を参考に、「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、配水池等有効容量198,634 m <sup>3</sup> のうち優先度の高い未補強施設の工事及び水運用の変更により、令和4年度末までに13,500 m <sup>3</sup> の耐震化を実施します。
			④下水道施設の津波対策 【下水道】	「静岡市下水道施設津波対策計画」及び「静岡市下水道総合地震対策計画」に基づき、重要な管・施設の地震対策を実施します。 （管路） 耐津波対策が必要な既設の下水道管路吐口全31箇所のうち、令和4年度末までに1箇所のゲート設置工事を実施します。 （施設） 耐津波対策が必要な5浄化センター、12ポンプ場及び14吐口を始め、各施設の耐震・耐津波対策実施計画を令和4年度末までに策定します。
<b>施策(2) 浸水対策</b>		この施策は、「雨水総合排水計画の更新」、「雨水ハザードマップの作成・公表」及び「雨水幹線・ポンプ場などの整備」の3つの事務事業により、浸水被害の軽減を図り、危機管理の強化を目指すものである。	①雨水総合排水計画の更新 【下水道】	雨水計画のマスタープランとなる雨水総合排水計画は、前回の見直し（H11～15）から10年以上が経過しており、旧市町の計画諸元の統一性を図るとともに、近年の大雨にも対応した総合的な浸水対策を実施するため、新たな「雨水総合排水計画」に更新します。
			②内水ハザードマップの作成・公表 【下水道】	「静岡市浸水対策推進プラン」に位置づけた内水ハザードマップ作成予定地区において、全8地区のうち、平成30年度末までには7地区で作成・公表済みであり、令和元年度に残り1地区作成し、全地区完了することから、説明会などを通し、市民にハザードマップの活用方法などの理解を深めます。
			③雨水幹線・ポンプ場などの整備 【下水道】	「静岡市浸水対策推進プラン」に位置づけた浸水対策地区において、下水道部が所管する26地区のうち、対策完了地区が平成30年度末で11地区完了しました。これを令和4年度末までに新たに5地区完了し、16地区の浸水対策を完了します。

【第3章】第4次中期経営計画の施策及び事務事業評価

政策	施策名	施策目的	事務事業名	実施目標
	<b>施策（3） 渇水対策</b>	この施策は、「水の相互運用」の事務事業により、渇水時においても安定した給水を確保できる体制を確立することで、危機管理の強化を目指すものである。	①水の相互運用 【水道】	平成30年度末に水道管布設工事が完了となる北部ルート21.1kmの通水作業、柏尾配水池の供用開始を行い、異常渇水時には安倍川水系と興津川水系の水を相互運用できる体制を確立します。
	<b>施策（4） 災害時などの対応や体制の確立</b>	この施策は、「事業継続計画（BCP）の充実・定着」及び「災害時活動拠点の整備」の2つの事務事業により、災害等発生時の行政と市民・民間との連携により、双方の協力体制を強化し、また、災害発生時の活動拠点を整備し、より迅速な復旧活動を可能にすることで、危機管理の強化を目指すものである。	①事業継続計画（BCP）の充実・定着 【共通】  ②災害時活動拠点の整備 【水道】	事業継続に必要な計画・マニュアルを整備し、職員や関係団体への研修・訓練により、一層の定着を図ります。  災害時に給水を可能な限り確保するため、市民に水を配る給水拠点の整備を進めます。
<b>政策2 管・施設を効率的に運用する。</b>				
	<b>施策（1） 管・施設の 老朽化対策</b>	この施策は、「中長期計画の更新」、「水道管の更新」、「下水道管の改築」、「水道施設の更新」、「下水道施設の改築」、「水道管の漏水対策」及び「下水道管の不明水対策」の7つの事務事業により、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応することで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。	①中長期計画の更新 【共通】  ②水道管の更新 【水道】  ③下水道管の改築 【下水道】  ④水道施設の更新 【水道】  ⑤下水道施設の改築 【下水道】  ⑥水道管の漏水対策 【水道】  ⑦下水道管の不明水対策 【下水道】	アセットマネジメント手法の導入効果の検証、施設の劣化予測の実態の検証、蓄積されたデータ等を活用し、中長期計画（水道：静岡市水道施設中長期更新計画、下水道：静岡市公共下水道再構築基本計画）の見直しを行います。  「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、配水支管2,286kmのうち令和4年度末までに70.3kmを更新します。  「静岡市公共下水道再構築基本計画」に基づき、再構築を必要とする布設後50年以上の下水道管のうち、17.6kmを改築し、管路の健全度を維持します。  「静岡市水道施設中長期更新計画」に基づき、水道施設において老朽化した機械・電気設備について、令和元年度から令和12年度末までに更新が見込まれる101箇所のうち27箇所を令和4年度末までに更新します。（箇所数は、工事数を示しています。）  「静岡市公共下水道再構築基本計画」に沿って策定した「静岡市下水道ストックマネジメント計画」に基づき、令和元年度から令和12年度末までに改築が見込まれる老朽化した施設160箇所のうち35箇所を令和4年度末までに改築します。（箇所数は、工事数を示しています。）  漏水調査実施計画に基づき、給水区域を20地区に分け、各地区の管の老朽度と漏水発生の頻度から、調査周期を1～3年と定め水道管の漏水調査を行うなど、積極的に漏水対策を行います。  不明水による浄化センター等への負荷低減を図るため、不明水の要因を特定するための調査・分析を行い、7処理区全9地区のうち令和4年度末までに3地区の対策案を策定します。

【第3章】第4次中期経営計画の施策及び事務事業評価

政策	施策名	施策目的	事務事業名	実施目標
	施策(2)施設の効率化	この施策は、「施設の小規模化・統廃合」及び「水運用計画の策定」の2つの事務事業により、水需要に即した施設規模の適正化に努め、維持管理経費の軽減を図っていくことで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。	①施設の小規模化・統廃合 【水道】	水道施設の更新や改築に合わせて小規模化や統廃合を進めます。
			②水運用計画の策定 【水道】	市域全体の水運用計画の検討を行い、水道施設の状況や水需要予測を十分に踏まえた水運用計画を策定し、事業を推進します。
<b>政策3 環境への負荷を軽減する。</b>				
施策(1)水環境の保護・改善		この施策は、「水源涵養林の維持管理」、「下水道計画区域内の整備」、「水洗化戸数の増加」及び「浄化センターからの放流水質の安定的な維持」の4つの事務事業により、上下水道に係る水環境を守るとともに改善を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。	①水源涵養林（すいげんかんようりん）の維持管理 【水道】	静岡市の水道事業で所有している2地区(5区域)32.2haの水源涵養林の保護・育成を継続的にを行い、適切に管理します。
			②下水道計画区域内の整備 【下水道】	事業計画(認可)面積 9,710.3haのうち、平成30年度末で8,935haが整備済となりました。これを令和4年度末までに新たに120haを整備し、9,055haとします。
			③水洗化戸数の増加 【下水道】	公共下水道の未接続世帯に対する臨戸訪問や文書勧告などの下水道接続推進活動により、水洗化戸数の増加を図ります。
			④浄化センターからの放流水質の安定的な維持 【下水道】	流入水に対し適正な対応をすることで、放流水の目標水質(日平均BOD8mg/L以下・SS20mg/L以下)を安定的に維持します。また、放流水質を悪化させる原因となる流入水のデータベース化を行います。
施策(2)温暖化対策		この施策は、「自然エネルギーの活用」及び「省エネルギー対策」の2つの事務事業により、自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。	①自然エネルギーの活用 【水道】	小水力発電設備を設置します。また、自然エネルギーの導入可能性について継続して検討していきます。
			②省エネルギー対策 【共通】	水道施設や下水道施設における設備の効率的な運転や高効率機器への更新、執務室における昼休みの消灯やクールビズ・ウォームビズの実施など、エネルギー使用量の削減に取り組むことで省エネルギーを推進します。
施策(3)資源のリサイクル		この施策は、「リサイクル率の向上」の事務事業により、再利用が可能な資源について、積極的にリサイクルを行うとともに、下水汚泥については、炭化炉の整備により燃料化を進め、エネルギー資源として活用するなどのリサイクル率を向上させ、環境への負荷の軽減を目指すものである。	①リサイクル率の向上 【下水道】	清水地区の汚泥集約化を完了させ、下水汚泥の有効利用先の調査及び検討を実施し、令和2年度末までに下水汚泥リサイクル率を100%に引き上げます。

政策	施策名	施策目的	事務事業名	実施目標
<b>政策4 お客さまサービスを向上させる。</b>				
<b>施策(1) 安全でおいしい水の 安定的な供給</b>		この施策は、「水道管の整備・充実」、「水道施設の整備・充実」、「直結給水サービスの拡大」、「水質管理・監視の充実」及び「鉛製給水管の更新」の5つの事務事業により、給水区域内の水道管や水道施設の整備・充実を図るとともに、水質管理・監視体制の充実、計画的な機器の更新を行い、安全でおいしい水を安定的に供給することを通じて、お客さまサービスの向上を目指すものである。	①水道管の整備・充実 【水道】	給水区域内において、需要に応じた水道管 12.8 kmの整備を順次進めていきます。
			②水道施設の整備・充実 【水道】	給水区域内における未整備地区など需要に応じた整備を順次進めていきます。
			③直結給水サービスの拡大 【水道】	水道施設の整備などに合わせて、直結給水が実施可能な地域や対象施設の拡大を図ります。また、増圧給水の承認により、高層階(10階程度)の直結給水を可能にします。
			④水質管理・監視の充実 【水道】	水安全計画、水質検査計画の運用や検証、水道GLPなどによる水質管理・監視体制の充実を図るとともに、水質検査機器や水質監視装置の定期的な保守点検と計画的な更新(32台中16台)を行います。
			⑤鉛製給水管の更新 【水道】	令和11年度までに鉛製給水管をポリエチレン製の給水管に更新する計画(静岡市鉛製給水管(なまりせいきゅうすいかん)更新計画)を平成21年度に作成しました。鉛製給水管は平成21年度末で64,596箇所ありましたが、平成22年度から平成30年度までに26,705箇所の更新を行い平成30年度末で37,891箇所まで減少しています。計画に基づき、令和元年度から令和4年度にかけて15,100箇所の更新を行います。
<b>施策(3) 接客・窓口サービス などの充実</b>		この施策は、「料金支払いの利便性の向上」、「サービス体制の再構築」及び「地域貢献」の3つの事務事業により、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、お客さまサービスの向上を目指すものである。	①料金支払いの利便性の向上 【共通】	お客さまのライフスタイルに合ったクレジットカード決済等の納付方法や請求方法などについて、要望やニーズを総合的に検証し、導入可能なものについて実施していきます。
			②サービス体制の再構築 【共通】	コロナ禍において大きく変化するお客さまニーズに応えるため、包括業務委託(未納料金収納等業務、お客様サービスセンター業務、給水装置・量水器関係業務)の業務仕様の見直し及び更なる委託範囲の拡大を検討、ICT技術等を活用し、多機能化した次世代型サービスの導入検討を進め、令和5年度以降の稼働を目指します。
			③地域貢献 【共通】	地域活動に積極的に参加するとともに、検針時に合わせ高齢者等の見守り支援を、市関係部署と連携し実施します。

【第3章】第4次中期経営計画の施策及び事務事業評価

政策	施策名	施策目的	事務事業名	実施目標
	<b>施策（４） 市民参画の 推進</b>	この施策は、「静岡市上下水道事業経営協議会の開催」、「協働事業の検討・実施」、「積極的な広報活動」及び「広聴機能の充実」の４つの事務事業により、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえるよう、わかりやすい内容による積極的な広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すものである。	①静岡市上下水道事業経営協議会の開催 【共通】	市民意見を広く聴くとともに、事業評価を適切に実施するため、「静岡市上下水道事業経営協議会」を開催します。
			②協働事業の検討・実施 【共通】	上下水道局が行うイベントへの市民ブースの出展や、広報活動に市民の皆さんのアイデアを取入れます。
			③積極的な広報活動 【共通】	SNS、ホームページ、局庁舎内に設置する展示コーナーなどで、積極的に事業PRを行うとともに、イメージキャラクター、ロゴマーク等を活用するなど、親しみやすい広報活動を推進します。
			④広聴機能の充実 【共通】	ホームページ等を活用したアンケート調査や、出前講座、施設見学、上下水道モニター等での意見聴取の結果を整理し対応する仕組みを整備します。また、経営計画策定の参考とするため、市民ニーズの把握などに努め、市民との双方向コミュニケーションを図ります。
<b>政策５ 信頼される経営を確立する。</b>				
<b>施策（１） 業務の効率化</b>	この施策は、「機能的な組織づくり」、「上下水道の資産・資源の有効活用」及び「マッピングシステムの運用拡大」の３つの事務事業により、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、業務の見直しや組織再編により、適正な職員数で事業を実施するとともに、必要な技術を残しながら、業務委託の活用などの民間手法を取り入れ、人員の最適化に努めることで、信頼される経営の確立を目指すものである。	①機能的な組織づくり 【共通】	水道事業及び下水道事業内の業務・組織の統廃合を検討・実施し、必要な部署への適正な人員配置を進めます。	
		②上下水道の資産・資源の有効活用 【共通】	水道事業、下水道事業は今まで別々に事業実施してきましたが、経営資源である「ヒト＝人材」を上下水道局という一つの組織として捉え、流動的かつ有効的に活用できる方策を検討し実施します。	
		③マッピングシステムの運用拡大 【水道】	水道管の口径や布設年度などの情報を管理するマッピングシステムにおいて、簡易水道統合、水道法改正を見据えた水道施設や事故、修繕履歴等の情報を管理することで、マッピングシステムの運用拡大による情報の効率的な管理と利用を行い、将来計画の充実を図ります。	
<b>施策（２） 職員の技術習得</b>	この施策は、「各種研修の充実」及び「技術継承の仕組みづくり」の２つの事務事業により、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指すものである。	①各種研修の充実 【共通】	事業運営に必要な知識・技術を確保するため、経験年数等に応じた階層別研修や、資格取得のための研修、外部機関が実施する専門研修などに職員を派遣します。 また、研修成果の発表の場を設け、他の職員へ知識・技術を広く伝えとともに、研修カリキュラムや検証を行う体制を構築します。	
		②技術継承の仕組みづくり 【共通】	事業運営に必要な技術や知識を確保するため、継承すべき技術の選定や継承するための仕組みを検討します。	

【第3章】第4次中期経営計画の施策及び事務事業評価

政策	施策名	施策目的	事務事業名	実施目標
	<b>施策（3） 財政の健全化</b>	この施策は、「新たな収入の確保」、「企業債残高の適正な管理」、「財政計画の定期的な見直し」、「適正な債権管理」及び「収納率の向上」の5つの事務事業により、未収金を減らし料金・使用料の増収を図り、新たな財源の確保と企業債残高の適正管理に努めるとともに、経常的な費用の最小化を行うことで、信頼される経営の確立を目指すものである。	①新たな収入の確保 【共通】	財源の確保のため、新規収入を検討・導入し、料金・使用料以外の収益を増やします。
			②企業債残高の適正な管理 【共通】	将来の支払利息が過大とならないよう、企業債残高を適正に管理します。
			③財政計画の定期的な見直し 【共通】	計画に基づいた事業を着実に実施し、また、将来の状況変化を見据えた次期計画を策定することで安定的な経営を目指します。
			④適正な債権管理 【共通】	早期催告、給水停止を強化し、効果的な滞納整理に努めるとともに、法的措置も含め、不良債権の整理等を検討し、実施することで未収金を削減します。
			⑤収納率の向上 【共通】	委託業務の推進により、民間業者が有する専門性、ノウハウを最大限に活用して、未収金を抑制し、また早期納付を推進していくことで収納率の向上に努めます。
	<b>施策（4） 新たな視点に立った上下水道事業の展開</b>	この施策は、「国際協力に係る情報収集と実施などの検討」及び「広域化の実施・検討」の2つの事務事業により、国際協力に係る情報収集を進め、対応可能な支援などの検討を行うとともに、広域化による事業メリット、連携の枠組み等の検討を進め、信頼される経営の確立を目指すものである。	①国際協力に係る情報収集と実施などの検討 【共通】	健全経営や確実な事業の執行を前提とする中で、職員が事業を継続しながら対応可能な国際協力である海外研修員の受入れについて情報収集を進め、実施を検討します。
			②広域連携の実施・検討 【共通】	地域の中核的な都市の役割を果たすため、近隣事業体との広域連携を実施・検討します。

## 2 評価方法

### ● 自己評価（1次評価）

自己評価（1次評価）とは、第4次中期経営計画に掲げた事務事業及び施策について、それぞれの目標に対する達成度を、上下水道局の行政評価\*決定機関である内部評価委員会において、自己評価したものである。

今年度の自己評価では、第4次中期経営計画に掲げた上下水道局が実施する50項目について、次に示す（2）評価基準 1「評価基準（事務事業）」に基づく5段階の評価を実施した。

また、事務事業の上位区分となる16の施策については、それぞれの施策ごとに、次に示す（2）評価基準 2「評価基準（施策）」に基づく4段階評価を用いて、総合的・体系的な評価結果をまとめた。

### ● 外部評価（2次評価）

外部評価（2次評価）とは、内部評価委員会の実施した自己評価結果を、協議会が専門的かつ客観的な第三者の視点から評価するもので、事業の充実や継続、見直しの根拠として活用するとともに、評価の透明性の確保と市民への説明責任を果たしていこうとするものである。

今年度の外部評価では、自己評価を実施した全ての事務事業のうちから、特に重要な18の主要事業について、次に示す（2）評価基準 1「評価基準（事務事業）」及びに基づき、成果指標の目標（値）に対する達成度について客観的に評価を実施した。

なお、■事務事業評価【外部評価結果】における「◆外部評価における個別の主要事業の成果に対する集約的意見」は、各委員から出された意見の要点をまとめ、これを集約的意見とすることについて協議会の審議を経たものであり、「◆外部評価における個別の主要事業の成果に対するその他の意見」は、集約的意見に反映されなかった意見である。

### ● 改善に向けた取組

目標を達成できなかった事務事業について、市当局が評価をとおして検討した改善に向けた取組を記載した。



### 3 評価基準

#### ① [評価基準（事務事業）]

第4次中期経営計画に掲げる事務事業について、設定した成果指標の目標値と実績値を比較した達成度を、アルファベット小文字の「s」から「c」までの4段階で評価した。政策変更等で実施しなかった事業は「—」を記入した。

評価区分	数値目標があるもの	数値目標がないもの
S	目標を上回る (105%以上)	・目標以上の成果があがっている。
a	目標どおり (90%以上105%未満)	・目的達成に向けて、計画どおり成果が出ている。 ・実績や事業費に見合った十分な成果が出ている。
b	目標を下回る (70%以上90%未満)	・目的達成に向けて、ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている。 ・実績や事業費に比較して成果がやや低い。
c	目標を顕著に下回る (70%未満)	・目的達成に向けて、成果が出ていない。 ・事業実施の効果が認められない。 ・今後も成果が見込めず、事業そのものの見直しが必要。
—	実施せず	・実施する必要が無くなった。 ・政策変更等により、実施が不可能となった。

#### ② [評価基準（施策）]

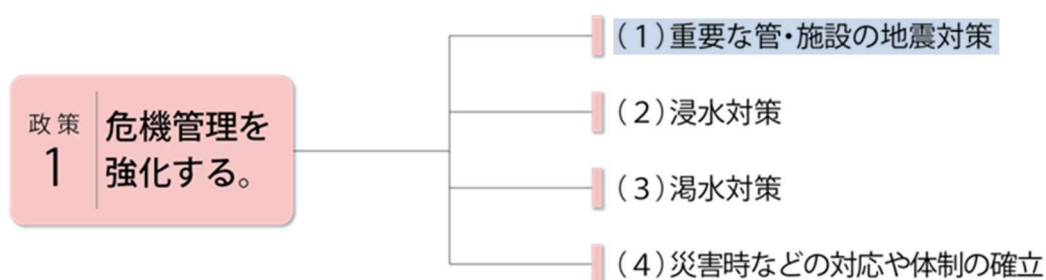
第4次中期経営計画に掲げる16の施策ごとに、構成する「主要事業」と「その他の事業」の達成状況を集約し、アルファベット大文字の「S」から「C」までの4段階で総合的・体系的に評価した。

評価区分	内容	評価の視点
S	施策の目的が十分に達成されている	・第4次中期経営計画策定時に立てた施策目的が十分に達成された状態にある。 ・施策推進による顕著な成果が見られる。
A	施策の目的が達成されている	・第4次中期経営計画策定時に立てた施策目的がおおむね達成された状態にある。 ・実績や事業費に見合った十分な成果が出ている。
B	施策の目的があまり達成されていない	・第4次中期経営計画策定時の施策目的が達成されているとはいえない状態にある。 ・実績や事業費に比較して成果がやや低い。
C	施策の目的が達成されていない	・第4次中期経営計画策定時に立てた施策目的がまったく達成されていない。 ・実績や事業費に見合った成果が出ていない。

#### 4 各施策の評価結果

施策名	1 - (1)	<b>重要な管・施設の地震対策</b>
目的	この施策は、「水道管の耐震化」、「下水道管の耐震化」、「水道施設の耐震化」及び「下水道施設の津波対策」の4つの事務事業により、想定される巨大地震に備え、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指すものである。	

政 策 -----> 施 策



#### 1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

##### ■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	①水道管の耐震化 【水道】	<p><b>【c評価】</b> 活動指標は、令和4年度計画「3.2km」に対し、令和3年度工事繰越完成分「0.6km」を加えた「1.7km」の実施となり、未達成となった。 また、成果指標の「基幹管路の耐震管率」は令和4年度計画の「42.2%」に対し、「41.5%」の実績で達成率は98.3%となったため、「a」評価となるが、活動指標が「未達成」であるため「c」評価とした。</p>	<p><b>【c評価】</b> 水道管の耐震化については、おおむね計画どおりに進捗しているが、年度内での活動に改善の余地ありとして「c」評価とした。 耐震化事業は、災害時の市民生活に直結する事業であるため、常に資材確保状況を把握しておくなど、整備を着実に推進するよう努めること。 なお、成果指標である基幹管路の耐震管率の達成率を踏まえ、「c」評価は厳しいとし、「b」とする評価も多くあった。</p>
◎	②下水道管の耐震化 【下水道】	<p><b>【a評価】</b> 下水道管の耐震化について、重要な下水道管の耐震化を令和4年度計画「9.9km」に対し、「20.9km」の実績となった。 具体的な取組として、下水道管の耐震化調査・設計及び工事を実施した。 また、重要な下水道管の耐震管率は令和4年度計画「63.7%」に対し、「66.0%」の実績で103.6%となったが、耐震診断した結果、耐震対策が不要となった管が想定を上回り、耐震対策不要延長が19.5kmとなったため、評価は「a」とした。</p>	<p><b>【a評価】</b> 下水道管の耐震化について、計画どおりに進捗している。 災害時に下水道施設が使えなければ、水道は通常のように使用できないため、今後も計画どおりに着実に進めるよう努めること。  (その他の意見) 診断による対策要否を計画値に反映させていく方法を検討すべき。</p>

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	③ 水道施設の耐震化 【水道】	<p><b>【b評価】</b>  水道施設の耐震化については、令和4年度計画では向敷地配水場工事に着手する予定であったが、原設計の見直しが必要となり、工事着手に至らず、必要となる調査業務を実施した。  配水池の耐震化率は、他事業で実施した配水池の新設や、既存施設の廃止により、令和4年度計画「44.3%」に対して「44.8%」となり、達成率は101%となった。成果指標は計画値以上となったが、活動指標は工事着手に向けた調査に着手するなど、目標達成に向けてある程度成果が出ているが、目標達成には至らなかったため、総合的に判断し、b評価とする。</p>	<p><b>【b評価】</b>  水道施設の耐震化について、計画どおりに進捗しているが、年度内での活動に改善の余地ありとして「b」評価とした。  災害時の水供給に大きな影響を及ぼすことから、今後も計画どおりに着実に進めるよう努めること。  なお、成果指標の達成率から、「a」評価とする意見もあった。</p>
	④ 下水道施設の津波対策 【下水道】	<p><b>【c評価】</b>  下水道施設の津波対策について、管路吐口ゲート設置工事（以下『管路吐口』とする）は、令和4年度計画ゲート設置工事「1箇所」に対し、「0箇所」及び「管路吐口耐津波詳細設計」を実施した。  次に、耐震・耐津波対策基本設計、実施計画策定（以下『施設耐震・耐津波』とする）については、令和4年度計画「基本設計実施1箇所・実施計画策定」に対し、基本設計実施「0箇所」で、実施計画も未策定となった。  具体的な取組として、『管路吐口』は、令和3年度の「管路吐口耐津波詳細設計」が遅延したことにより、設置工事「1箇所」が令和4年度中に完了せず令和5年度へ繰越しとなった。  また、『施設耐震・耐津波』は、令和4年度計画基本設計実施「1箇所」の清開ポンプ場の耐震・耐津波対策基本設計業務委託が令和4年度中に完了せず令和5年度へ繰越しとなり、実施計画策定についても完了しなかった。  管路吐口のゲート設置工事実施率は、令和4年度計画「3.2%」に対し「0.0%」の実績で達成率は0.0%で「c」評価とし、施設の耐震・耐津波対策基本設計及び実施計画の実施率は、令和4年度計画「100%」に対し「85.7%」の実績で、達成率は85.7%で「b」評価となり、総合的に判断し「c」評価とした。</p>	<p><b>【c評価】</b>  下水道施設の津波対策について、計画を大きく下回っている。  災害時の下水道の流下機能に大きな影響を及ぼすことから、計画どおりに着実に進めるよう努めること。   (その他の意見)  入札不調や工事遅延となった原因について、分析し、具体的に示すべき。</p>

## 2 改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

①水道管の耐震化	「a」未達の理由となった日本平公園整備事業に伴う送水管布設替工事は、当初は年度末で完成予定であったが、資材調達が困難となりやむなく工期を延伸し繰越事業となった。改善に向けた取組としては、資材等の確保について受注者に定期的に確認をするとともに、予定通りの納入が困難であることが判明した場合は、速やかに工事変更などの対処ができるよう調整する。
③水道施設の耐震化	令和4年度に改定された指針を踏まえ、令和4年度は地質調査の実施や、詳細設計の修正に着手した。令和5年度に修正設計をまとめ、令和6年度から工事着手できるように業務を進めていく。
④下水道施設の津波対策	『管路吐口』については、詳細設計時において入札不調による遅延が生じないように、早期に発注するなどの対策を図る。 また、『施設耐震・耐津波』については、今回の協議で建築指導課から示された方針に基づき、今後、同様な業務においても円滑に協議を進める。

### ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標			R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
◎	①水道管の耐震化	活動指標	水道管(基幹管路)の耐震化	計画値	1.3km	2.5km	2.0km	3.2km	
				実績値	1.3km	1.8km	3.0km	1.7km	
		成果指標	基幹管路の耐震管率	計画値	39.5%	40.5%	41.2%	42.2%	
				実績値	39.3%	40.1%	40.8%	41.5%	
		達成率				99.5%	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	99.0%	98.3%
		自己評価				a	b	a	c
		外部評価				a	b	a	c
◎	②下水道管の耐震化	活動指標	重要な下水道管の耐震化	計画値	6.0km	7.1km	6.3km	9.9km	
				実績値	6.0km	10.4km	28.0km	20.9 km	
		成果指標	重要な下水道管の耐震管率	計画値	53.5%	55.0%	56.4%	63.7%	
				実績値	53.5%	55.7%	61.6%	66.0%	
		達成率				100%	101.3%	計画どおり成果が出ている	103.6%
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価				a	a	a	a

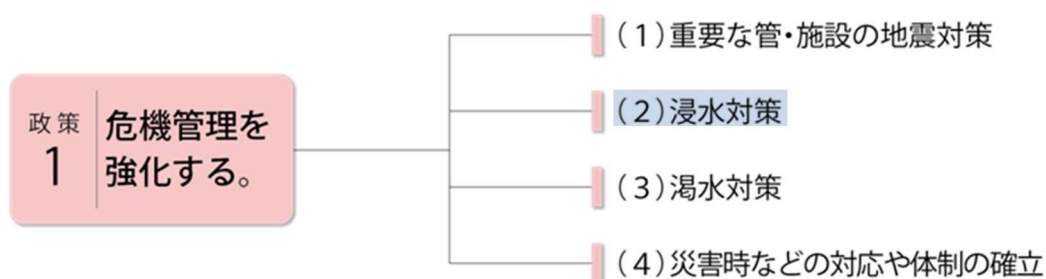
◎	③水道施設の耐震化	活動指標	水道施設の耐震化	計画値	9,500 m <sup>3</sup>	(計画見直し)	4,000 m <sup>3</sup>	(工事着手)	
				実績値	9,500 m <sup>3</sup>	(計画見直し)	4,000 m <sup>3</sup>	地質調査 詳細修正設計	
		成果指標	配水池の耐震化	計画値	41.0%	42.1%	44.3%	44.3%	
				実績値	41.0%	42.1%	44.3%	44.8%	
		達成率				100%	100%	100%	101%
		自己評価				a	a	a	b
		外部評価				a	a	a	b
④下水道施設の津波対策	活動指標	(管路吐口)ゲート設置工事	計画値	—	管路吐口耐津波診断・基本設計	管路吐口耐津波詳細設計 遠方監視制御システム設置工事	1箇所		
			実績値	—	管路吐口耐津波診断	遠方監視制御システム設置工事	管路吐口耐津波詳細設計 0箇所		
	(施設)耐震・耐津波対策基本設計、実施計画策定	計画値	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(1箇所) 実施計画策定			
		実績値	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(2箇所)	基本設計実施(0箇所)			
	成果指標	(管路吐口)ゲート設置工事実施率	計画値	—	—	—	3.2%		
			実績値	—	—	—	0.0%		
	(施設)耐震・耐津波対策実施計画実施率	計画値	28.6%	57.1%	85.7%	100%			
		実績値	28.6%	57.1%	85.7%	85.7%			
	達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	目標達成に向けて、成果がでない。	
	自己評価				a	a	a	c	
	外部評価				/	/	/	c	

■ 施策評価

自己評価	B	<p>重要な管・施設の地震対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、1つの事務事業が計画どおりの実施となった。しかし、3つの事務事業は計画を下回り、そのうち「①水道管の耐震化」は資材調達の遅れ、「④下水道施設の津波対策」は関係課協議に時間を要したことにより「c」評価となった。</p> <p>以上のことから、管や施設の地震対策及び津波対策を進めることで、危機管理の強化を目指す施策の目的が達成されているとはいえないため、令和4年度の施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
------	---	--

施策名	1-(2) 浸水対策
目的	この施策は、「雨水総合排水計画の更新」、「内水ハザードマップの作成・公表」及び「雨水幹線・ポンプ場などの整備」の3つの事務事業により、浸水被害の軽減を図り、危機管理の強化を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	①雨水総合排水計画の更新 【下水道】	<p><b>【c評価】</b> 雨水総合排水計画の更新について、令和4年度計画「基本計画（長期計画地区）」に対し「基本計画（長期計画地区）策定中」となった。 具体的な取組として、令和2年12月に公表した「基本構想」に基づき、浸水リスクが想定される地区など中期計画地区以降に対策を行う必要のある「長期計画地区」を策定中である。 また、基本計画策定進捗率は、令和4年度計画「100%（基本計画策定完了）」に対し、「62%（基本計画策定中）」の実績で、達成率62%となったため、「c」評価とした。</p>	<p><b>【c評価】</b> 雨水総合排水計画の更新について、計画を大きく下回っている。 災害時の浸水被害の軽減に大きな影響を及ぼすことから、計画どおりに着実に進めるよう努めること。</p>
	②内水ハザードマップの作成・公表 【下水道】	<p><b>【a評価】</b> 内水ハザードマップの作成・公表について、出前講座を令和4年度計画「4回」に対し、「8回」実施した。 具体的な取組として、学校や生涯学習施設などからの要請を受け、計画を上回る8回実施した。 また、市民理解度は、令和4年度計画「80%以上」に対し、「92%」の実績で、達成率115.0%となったが、令和4年台風15号では、多くの被害が発生しており、内水ハザードマップの更なる周知が必要であると考え「a」評価とした。</p>	

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	③雨水幹線・ポンプ場などの整備 【下水道】	<p><b>【a 評価】</b> 雨水幹線・ポンプ場などの整備について、雨水幹線・ポンプ場などの完了地区数を、令和4年度計画「0地区」に対し、「1地区」完了した。次に対策実施地区数は、令和4年度計画どおり「4地区」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、対策完了地区数は、令和3年度に完了予定であった「高橋二丁目・三丁目・飯田町」地区の高橋雨水ポンプ場が令和4年度に整備が完了したため、実績値は「1地区」とした。</p> <p>次に、対策実施地区数は、「高橋二丁目・三丁目・飯田町」地区「城北二丁目」地区、「追分二丁目」地区、及び「川岸町・渋川」地区の「4地区」を整備した。</p> <p>浸水対策率は令和4年度計画どおり「61.5%」の実績で、達成率は100.0%となり「a」評価とした。</p>	<p><b>【a 評価】</b> 雨水幹線・ポンプ場などの整備について、計画どおりに進捗している。</p> <p>異常気象による豪雨から市民の生活を守るため、今後も整備を着実に推進するよう努めること。</p> <p>(その他の意見) 実施目標と活動指標それぞれの計画実績値がどうリンクするかが分かりづらい。</p>

## 2 改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

①雨水総合排水計画の更新	突発的な外的要因（令和4年台風15号）により必要となった対応であることから、改善に向けた取組方針の設定に該当しないと考える。
--------------	--

### ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
①雨水総合排水計画の更新	活動指標	雨水総合排水計画の更新	計画値	基本構想	基本計画短期計画地区	基本計画中期計画地区	基本計画長期計画地区
			実績値	基本構想素案	基本計画短期計画地区	基本計画中期計画地区	基本計画長期計画地区 策定中
	成果指標	計画策定進捗率	計画値	—	32%	62%	100% (基本計画策定完了)
			実績値	—	32%	62%	62% (基本計画策定中)
	達成率			目標達成に向けて成果が出ていない	100%	100%	62%
	自己評価			c	a	a	c
	外部評価			c			c

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
②内水ハザードマップの作成・公表		活動指標	マップ作成・公表地区数	計画値	1 地区 (全地区完了)	—	—		
				実績値	1 地区 (全地区完了)	—	—		
			マップ更新回数	計画値	—	1 回	—	—	
				実績値	—	1 回	—	—	
			出前講座・説明会など	計画値	3 回	3 回	4 回	4 回	
				実績値	6 回	4 回	4 回	8 回	
		成果指標	浸水被害の軽減のための市民理解度	計画値	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上	
				実績値	94%	96%	92%	92%	
		達成率				117.5%	120%	115%	115%
		自己評価				s	s	s	a
		外部評価				/	/	/	/
◎③雨水幹線・ポンプ場などの整備		活動指標	雨水幹線・ポンプ場などの完了地区数(対策実施地区数)	計画値	4 地区 (6 地区)	0 地区 (5 地区)	1 地区 (5 地区)	0 地区 (4 地区)	
				実績値	1 地区 (8 地区)	2 地区 (7 地区)	1 地区 (5 地区)	1 地区 (4 地区)	
		成果指標	浸水対策率(対策完了地区数)	計画値	57.7% (15 地区)	57.7% (15 地区)	61.5% (16 地区)	61.5% (16 地区)	
				実績値	46.2% (12 地区)	53.8% (14 地区)	57.6% (15 地区)	61.5% (16 地区)	
		達成率				80.1%	93.2%	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	100%
		自己評価				b	a	b	a
		外部評価				b	a	b	a

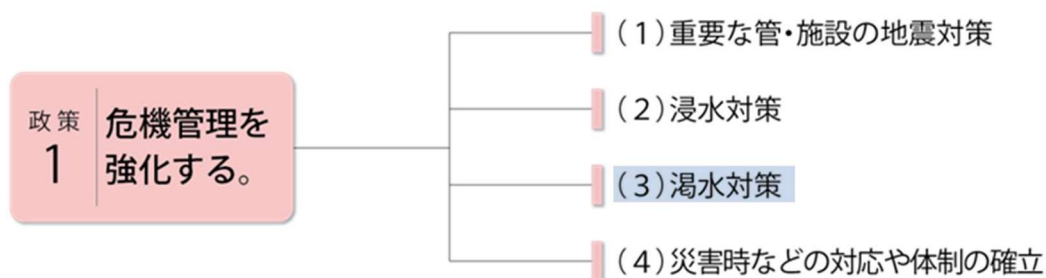
■ 施策評価

自己評価	A	<p>浸水対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する3つの事務事業のうち、2つの事務事業は計画どおりの実施となった。</p> <p>しかし、「①雨水総合排水計画の更新」の事務事業は、令和4年台風15号により追加作業が必要となり、基本計画策定に遅れが生じ、「c」評価となっている。</p> <p>以上のことから、浸水被害の軽減を図り、危機管理の強化を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度の施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
------	---	--



施策名	1-(3) 渇水対策
目的	この施策は、「水の相互運用」の事務事業により、渇水時においても安定した給水を確保できる体制を確立することで、危機管理の強化を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	①水の相互運用 【水道】	<p><b>【a評価】</b>            水の相互運用について、令和元年度に「北部ルート」が完成し、令和2年度には「配水池運用」を開始した。            具体的な取組として、清水区の一部区域（柏尾、大内、鳥坂、梅ヶ谷地区など）への配水のため柏尾配水池の常時運用を行った。            また、渇水に伴う給水制限日数は令和4年度計画どおり「0日」となり、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p>	

## ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

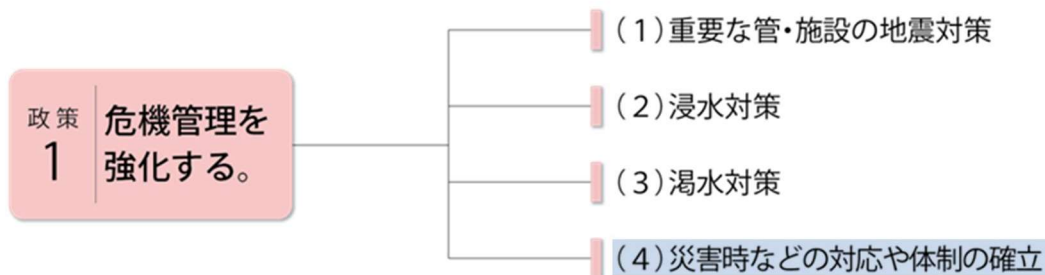
主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
◎	①水の相互運用	活動指標	北部ルート運用開始	計画値	工事完成 通水作業	配水池運用 開始	—	—
				実績値	工事完成 通水作業	配水池運用 開始	—	
		成果指標	給水制限 日数	計画値	—	0日	0日	0日
				実績値	0日	0日	0日	0日
		達成率			計画どおり成 果が出ている	計画どおり成 果が出ている	計画どおり成 果が出ている	計画どおり成 果が出ている
		自己評価			a	a	a	a
		外部評価						

## ■施策評価

自己評価	A	<p>渇水対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度も施策を構成する事務事業「水の相互運用」が計画どおりの実施となり引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、渇水時においても安定した給水を確保できる体制を確立することで、危機管理の強化を目指す施策の目的が達成されているため、「A」評価とした。</p>
------	---	--

施策名	1-(4) 災害時などの対応や体制の確立
目的	この施策は、「事業継続計画（BCP）の充実・定着」及び「災害時活動拠点の整備」の2つの事務事業により、災害等発生時の行政と市民・民間との連携により、双方の協力体制を強化し、また、災害発生時の活動拠点を整備し、より迅速な復旧活動を可能にすることで、危機管理の強化を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	①事業継続計画（BCP）の充実・定着 【共通】	<p><b>【a評価】</b> 事業継続計画（BCP）の充実・定着について、令和4年度計画どおり「実施検証」した。 具体的な取組として、水道事業における災害時の班編成や情報連絡体制の見直しを行うとともに、新たな情報通信機器（ハザードトーク）の配備が、令和3・4年度に計画どおり完了した。 また水道部防災訓練では、災害時における本部運営や管路調査など各班の行動・手順の確認訓練を行った。さらに、令和3年度に予定していたが、コロナ禍で実施を延期した静岡市開催の川崎市との合同防災訓練（受援）を6月に実施したほか、11月には川崎市開催の川崎市・札幌市との合同防災訓練（応援）を行った。なお、台風15号災害対応では既存の対応計画に基づき行動したが、その際に生じた情報共有や応急給水などの課題について検証を行い、解決に向けた取組に着手している。 下水道事業においては、ハザードトークの整備（令和3年度：3台購入、令和5年度：5台購入予定）により、既存の衛星携帯電話やIP無線機に加え、多様な情報通信手段の確保を進めている。また、令和2、3年度にはコロナ禍により実施できなかった浜松市との合同防災訓練（応援）を、4年度1月に実施した。なお、水道・下水道事業の災害対策訓練実施回数は令和4年度計画を上回る「6回」の実績で、目標達成に向けて計画どおりの成果が出ているため「a」評価とした。</p>	

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	②災害時活動拠点の整備 【共通】	<p><b>【a評価】</b> 災害時活動拠点の整備について、令和4年度計画「1基」に対し、「1箇所」実施した。 具体的な取組として、清水区柏尾に災害時用の給水栓の整備を「1箇所」実施した。 また、災害時、1週間に必要となる水を供給できる人数は、令和4年度計画「208,000人」に対し、「208,000人」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	

### ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

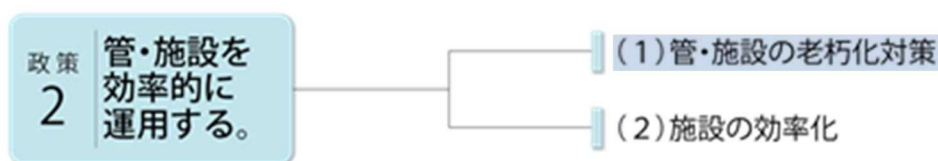
主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
◎	①事業継続計画(BCP)の充実・定着	活動指標	事業継続計画(BCP)の充実・定着	計画値	実施検証	実施検証	実施検証	
				実績値	実施検証	実施検証	実施検証	
		成果指標	災害対策訓練実施回数	計画値	5回	5回	5回	5回
				実績値	5回	5回	5回	6回
		達成率		100%	100%	100%	計画どおり成果が出ている	
		自己評価		a	a	a	a	
外部評価								
◎	②災害時活動拠点の整備	活動指標	耐震性貯水槽の設置	計画値	1基設置	1基設置	—	
				実績値	1基設置	—	1基設置	施設整備1箇所
		成果指標	災害時、1週間に必要となる水を供給できる人数	計画値	198,400人	203,200人	203,200人	208,000人
				実績値	198,400人	198,400人	203,200人	208,000人
		達成率		100%	計画どおり成果が出ている	100%	100%	
		自己評価		a	a	a	a	
		外部評価			a			

## ■ 施策評価

自己 評価	A	<p>災害時などの対応や体制の確立について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、成果も出ている。</p> <p>以上のことから、災害等発生時の行政と市民・民間との連携により、双方の協力体制を強化し、また、災害発生時の活動拠点を整備し、より迅速な復旧活動を可能にすることで、危機管理の強化を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p> <p>しかし、「台風第15号に係る災害対応検証」では、市民や自治会が求める情報を適切なタイミングで届けることができなかったことや、給水拠点の周知不足・混雑発生などを課題として整理している。</p> <p>これらを踏まえ、市民が利用できる情報ツールや、給水拠点等を活用した効果的な情報発信の検討を行う。</p> <p>さらに、自主防災組織による貯水槽の使用訓練など、目的別訓練の質の向上を行い、事務事業の取組改善につなげ、施策目的の達成に向けて一層努めていきたい。</p>
----------	---	--

施策名	2-(1) 管・施設の老朽化対策
目的	この施策は、「中長期計画の更新」、「水道管の更新」、「下水道管の改築」、「水道施設の更新」、「下水道施設の改築」、「水道管の漏水対策」及び「下水道管の不明水対策」の7つの事務事業により、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応することで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	① 中長期計画の更新 【共通】	<p><b>【a評価】</b>            中長期計画の更新について、令和4年度計画どおり「次期計画への反映」を実施した。            具体的な取組として、静岡市水道施設中長期更新計画と静岡市公共下水道再構築基本計画について、蓄積したデータをもとに計画の見直しを行い、令和5年度からの計画に更新した。            また、計画策定進捗率は令和4年度計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	/
◎	② 水道管の更新 【水道】	<p><b>【c評価】</b>            水道管の更新について、水道管（配水支管）の更新を令和4年度計画「28.1km」に対し、「17.6km」実施した。            具体的な取組として、駿河区登呂四丁目・登呂五丁目配水管布設替工事外55件を実施した。            また、管路の更新率は令和4年度計画「1.20%」に対し、「0.74%」の実績で、達成率は61.7%となったため、「c」評価とした。</p>	<p><b>【c評価】</b>            水道管の更新について、計画を大きく下回っている。            老朽化した水道管の更新は、安定給水につながることから、遅れの原因となる入札不調の改善を図るような取組を継続的に検討・実施し、更新を計画的に進めるよう努めること。</p>

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	③ 下水道管の改築 【下水道】	<p>【a 評価】</p> <p>下水道管の改築について、下水道管の改築を令和4年度計画「4.8km」に対し、「5.3km」実施した。</p> <p>具体的な取組として、老朽化が進んでいる処理区のカメラ及び目視調査・設計及び工事を実施した。</p> <p>また、管きょ100km当たりの陥没箇所数は令和4年度計画「0.4箇所/100km以下」に対し、「0.20箇所」と目標を上回り、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p>	<p>【a 評価】</p> <p>下水道管の改築について、計画どおりに進捗している。</p> <p>老朽化した下水道管の改築は、安定的な排水処理と道路通行の安心につながるため、今後も老朽化した管の調査・改築を計画的に進めるよう努めること。</p>
◎	④ 水道施設の更新 【水道】	<p>【b 評価】</p> <p>水道施設の更新について、水道施設(設備)の更新数を令和4年度計画「7箇所」に対し、「5箇所」実施した。</p> <p>具体的な取組として、葵区中央・遠方監視制御設備更新工事ほか4箇所を実施した。</p> <p>また、更新実施率はR4計画「26.7%」に対し、「24.7%」の実績で、達成率は92.5%となったため、「a」評価となるが、活動指標が「未達成」であるため、「b」評価とした。</p>	<p>【b 評価】</p> <p>水道施設の更新について、計画をやや下回っている。</p> <p>全国的に半導体や部品類の流通、供給が滞る中ではあるが、着実な更新を進めるよう努めること。</p> <p>なお、成果指標の達成率から、「a」評価とする意見もあった。</p>
◎	⑤ 下水道施設の改築 【下水道】	<p>【a 評価】</p> <p>下水道施設の改築について、下水道施設の改築数を令和4年度計画「9箇所」に対し、「9箇所」実施した。</p> <p>具体的な取組として、城北浄化センター受変電設備改築工事や清開ポンプ場汚水ポンプ設備改築工事などを実施した。</p> <p>また、成果指標である改築実施率は令和4年度計画「21.8%」に対し、「24.4%」の実績で、達成率は前年度までの実績により111.9%となったが、令和4年度活動指標の下水道施設の改築数実績は計画どおりであったため、「a」評価とした。</p>	<p>【a 評価】</p> <p>下水道施設の改築について、計画どおりに進捗している。</p> <p>全国的に半導体や部品類の流通、供給が滞る中、計画どおりに進捗していることは評価できる。引き続き、着実な更新を進めるよう努めること。</p>
◎	⑥ 水道管の漏水対策 【水道】	<p>【s 評価】</p> <p>水道管の漏水対策について、令和4年度計画「漏水調査：計13地区」に対し、「漏水調査：全20地区」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、延長2,214kmの漏水調査を実施し、配水管等で274箇所の漏水を発見し修繕した。</p> <p>また、管路点検率は令和4年度計画「51.1%」に対し、「84.7%」の実績で、達成率は165.8%となったため、「s」評価とした。</p>	<p>【s 評価】</p> <p>水道管の漏水対策について、計画を上回る実績であることを評価する。</p> <p>漏水対策は早期発見・修繕が非常に重要なため、手法を工夫し、全地区調査できたことは評価できる。</p> <p>漏水対策は漏水量の軽減、有収率の向上、事故の抑制につながるため、引き続き対策を進めるよう努めること。</p> <p>(その他の意見)</p> <p>漏水調査および修繕をした結果、有収率が数値上どれほど改善されたのかが不明である。よって次期計画においては、当該事業の成果指標を見直すべきと思われる。</p>

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	⑦下水道管の不明水対策 【下水道】	<p><b>【a評価】</b>                      下水道管の不明水対策について、対策案策定完了地区数(検討実施地区数)を令和4年度計画どおり「1地区(2地区)」実施した。                      具体的な取組として、静清処理区&lt;A地区&gt;の対策案を策定し、南部処理区で詳細解析を実施した。                      また、対策案策定率は、令和4年度計画どおり「27%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	

## 2 改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

②水道管の更新	<p>入札不調対策として行う着手日選択制度による発注や、債務負担行為の活用による大規模工事の実施などの取組は、業者の受注環境の改善に効果がある一方で、工期が長くなり単年度で工事完了とならない事も想定される。                      そのため、業者の受注状況の把握に努め、発注時期を精査し計画的に発注するなど、可能な限り単年度での工事完了に向けて取り組んでいく。</p>
---------	---

④水道施設の更新	<p>今後も機器の納期遅延は継続する見込みで、状況を注視していく必要があり、場合により更新時期の見直しや発注時期の調整などを実施していく。</p>
----------	---

## ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	①中長期計画の更新	活動指標	中長期計画の検証・更新	計画値	情報収集データ蓄積	情報収集データ蓄積	情報収集データ蓄積	次期計画への反映	
				実績値	情報収集データ蓄積	情報収集データ蓄積・年次計画の見直し	情報収集データ蓄積	次期計画への反映	
		成果指標	計画策定進捗率	計画値	25%	50%	75%	100%	
				実績値	25%	50%	75%	100%	
		達成率				100%	100%	100%	100%
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価							
主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		



◎	②水道管の更新	活動指標	水道管(配水支管)の更新	計画値	7.7 km	13.1 km	21.4 km	28.1 km	
				実績値	7.0 km	9.8km	15.7km	17.6 km	
		成果指標	管路の更新率	計画値	0.34%	0.60%	0.90%	1.20%	
				実績値	0.32%	0.44%	0.71%	0.74%	
		達成率				94.1%	73.3%	78.9%	61.7%
		自己評価				a	b	b	c
		外部評価				a	b	b	c
◎	③下水道管の改築	活動指標	下水道管の改築	計画値	3.0km	4.9km	4.9km	4.8km	
				実績値	2.6km	3.9km	5.3km	5.3 km	
		成果指標	管きよ100km当たりの陥没箇所数	計画値	0.4 箇所/100km以下	0.4 箇所/100km以下	0.4 箇所/100km以下	0.4 箇所/100km以下	
				実績値	0.32	0.24	0.28	0.20	
		達成率				計画どおりの成果が出ている	計画どおりの成果が出ている	計画どおりの成果が出ている	計画どおりの成果が出ている
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価				a	a	a	a
◎	④水道施設の更新	活動指標	水道施設(設備)の更新数	計画値	6 箇所	7 箇所	7 箇所	7 箇所	
				実績値	6 箇所	7 箇所	7 箇所	5 箇所	
		成果指標	更新実施率	計画値	5.9%	12.8%	19.8%	26.7%	
				実績値	5.9%	12.8%	19.8%	24.7%	
		達成率				100%	100%	100%	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている。
		自己評価				a	a	a	b
外部評価				a	a	a	b		
◎	⑤下水道施設の改築	活動指標	下水道施設の改築数	計画値	9 箇所	8 箇所	9 箇所	9 箇所	
				実績値	10 箇所	11 箇所	9 箇所	9 箇所	
		成果指標	改築実施率	計画値	5.6%	10.6%	16.2%	21.8%	
				実績値	6.3%	13.1%	18.8%	24.4%	
		達成率				112.5%	123.5%	計画どおりの成果が出ている	計画どおりの成果が出ている
		自己評価				s	s	a	a
外部評価				s	s	a	a		
主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		

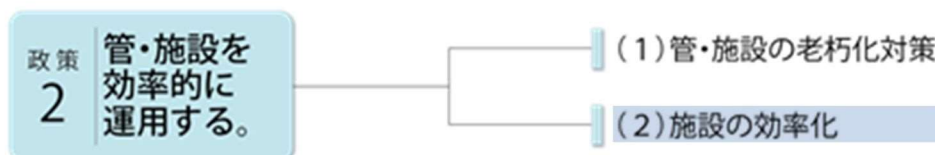
主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
◎	⑥水道管の漏水対策	活動指標	漏水調査 【1段目: 調査地区数】 (内訳) 【2段目: 1年に1回】 【3段目: 2年に1回】 【4段目: 3年に1回】	計画値	14地区	14地区	12地区	13地区	
					8地区	8地区	8地区	8地区	
					4地区	3地区	4地区	3地区	
					2地区	3地区	0地区	2地区	
				実績値	14地区	14地区	20地区	20地区	
					8地区	8地区	8地区	8地区	
					4地区	3地区	7地区	7地区	
					2地区	3地区	5地区	5地区	
		成果指標	管路点検率	計画値	60.1%	54.7%	52.7%	51.1%	
				実績値	60.1%	55.5%	84.7%	84.7%	
達成率				100%	101.5%	160.7%	165.8%		
自己評価				a	a	s	s		
外部評価				a	a	s	s		
◎	⑦下水道管の不明水対策	活動指標	対策案策定完了地区数 (検討実施地区数)	計画値	— (3地区)	1地区 (4地区)	1地区 (3地区)	1地区 (2地区)	
				実績値	— (3地区)	1地区 (4地区)	1地区 (3地区)	1地区 (2地区)	
		成果指標	対策案策定率	計画値	7%	17%	24%	27%	
				実績値	7%	17%	24%	27%	
		達成率				100%	100%	100%	100%
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価							

■ 施策評価

自己評価	B	<p>管・施設の老朽化対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する7つの事務事業のうち、4つの事務事業が計画どおりの実施で、1つの事務事業が計画を上回る実施となり、これらの事務事業は引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「②水道管の更新」は入札不調により、当該年度の計画値が達成できず「c」評価となり、「④水道施設の更新」は機器の納期遅延により、「b」評価となった。</p> <p>以上のことから、将来にわたって上下水道サービスを持続していけるよう、管・施設の老朽化に対応することで、管・施設の効率的な運用を目指す施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
------	---	---

施策名	2-(2) <b>施設の効率化</b>
目的	この施策は、「施設の小規模化・統廃合」及び「水運用計画の策定」の2つの事務事業により、水需要に即した施設規模の適正化に努め、維持管理経費の軽減を図っていくことで、管・施設の効率的な運用を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	① 施設の 小規模化・統 廃合 【水道】	<p><b>【a 評価】</b> 施設の小規模化・統廃合について、施設の統廃合を令和4年度計画「中町浄水場・配水池跡地の利活用方針決定」に対し、令和2年度に実施済となっている。 また、軽減額は令和4年度計画「1,952万円」に対し、「2,020万円」の実績で、達成率は103.4%となったため、「a」評価とした。</p>	
	② 水運用計 画の策定 【水道】	<p><b>【a 評価】</b> 水運用計画の策定について、計画の策定について令和3年度までに完了した。具体的な取組として、策定した水運用計画に基づく事業実施・管理を行った。 また、計画策定進捗率は計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

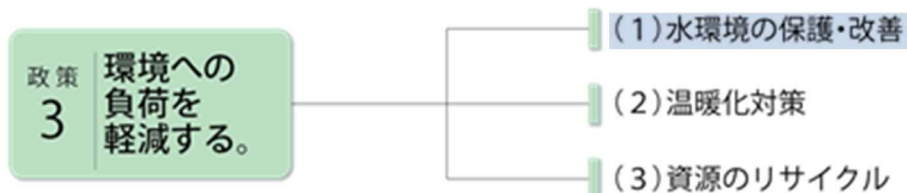
主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
①施設の小規模化・統廃合	活動指標	施設の統廃合	計画値	2 施設停止	1 施設停止	1 施設停止	中町浄水場・配水池跡地の利活用方針決定	
			実績値	2 施設停止	1 施設停止 中町浄水場・配水池跡地の利活用決定	1 施設停止	—	
	成果指標	軽減額	計画値	0 円	998 万円	1,940 万円	1,952 万円	
			実績値	120 万円	1,017 万円	2,010 万円	2,020 万円	
	達成率				目標以上の成果があがっている	101.9%	103.6%	103.4%
	自己評価				s	a	a	a
	外部評価					a		
◎ ②水運用計画の策定	活動指標	水運用計画	計画値	委託発注作業部会設置	計画策定	—	—	
			実績値	委託発注作業部会設置	計画策定	計画策定	—	
	成果指標	計画策定進捗率	計画値	25%	100%	100%	100%	
			実績値	25%	90%	100%	100%	
	達成率				100%	90.0%	100%	100%
	自己評価				a	a	a	a
	外部評価							

■施策評価

自己評価	A	<p>施設の効率化について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価となった。</p> <p>令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で、計画どりの実施となり、引き続き成果も出ている。</p> <p>以上のことから水需要に即した施設規模の適正化に努め、維持管理経費の軽減を図っていくことで、管・施設の効率的な運用を目指す施策の成果が十分に出ているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
------	---	---

施策名	3-（1）	<b>水環境の保護・改善</b>
目的	この施策は、「水源涵養林の維持管理」、「下水道計画区域内の整備」、「水洗化戸数の増加」及び「浄化センターからの放流水質の安定的な維持」の4つの事務事業により、上下水道に係る水環境を守るとともに改善を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。	

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	①水源涵養林の維持管理 【水道】	<p><b>【a評価】</b> 水源涵養林の維持管理について、令和4年度計画「5.4ha」に対し、「5.7ha」実施した。 具体的な取組として、山林の状態を見て判断しながら下刈り及び間伐を実施した。 また、取水量1m<sup>3</sup>当たり水源保全投資額は、令和4年度計画どおり「0.16円/m<sup>3</sup>」の実績で、達成率は100%となった。次に維持管理総面積に対する進捗率は、令和4年度計画「68.9%」に対し、「75.2%」の実績で、達成率は109.1%となった。 2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p>	
◎	②下水道計画区域内の整備 【下水道】	<p><b>【a評価】</b> 下水道計画区域内の整備について、下水道の整備済面積を令和4年度計画値「25ha」に対し、「27ha」実施した。 具体的な取組として、中島処理区服織地区、大谷地区、静清処理区飯田地区、長崎地区等の整備を実施した。 また、下水道整備率は令和4年度計画「93.3%」に対し、「93.4%」の実績で、達成率は100.1%となったため「a」評価とした。</p>	

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	③ 水洗化戸数の増加 【下水道】	<p><b>【a 評価】</b> 水洗化戸数の増加について、「臨戸訪問の実施」を令和4年度計画「40,000戸」に対し、「46,079戸」実施した。</p> <p>具体的な取組として、清水区では令和4年台風第15号の浸水被害があった家屋へ臨戸訪問を自粛するなどの影響があったが、未水洗家屋台帳システムを活用し、未接続家屋に対する現地調査や文書勧告を積極的に行った。臨戸訪問については、新規供用開始地区へ重点的に訪問するなど工夫し、効果的に接続推進活動を行った。</p> <p>また、水洗化率は令和4年度計画「91.6%」に対し、「91.1%」の実績で、達成率は99.5%となったため、「a」評価とした。</p>	
	④ 浄化センターからの放流水質の安定的な維持 【下水道】	<p><b>【a 評価】</b> 浄化センターからの放流水質の安定的な維持について、令和4年度計画のとおり「実施」した。</p> <p>具体的な取組として、全7浄化センターで計371回の水質検査を実施した。</p> <p>また、目標水質達成率(BOD)は令和4年度計画「100%」に対し、「93.5%」の実績で、達成率は93.5%となった。次に目標水質達成率(SS)は令和4年度計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となった。2つの成果指標を勘案して、「a」評価とした。</p>	

## ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
①水源涵養林の維持管理	活動指標	水源涵養林の維持管理	計画値	5.4ha	5.9ha	5.5ha	5.4ha
			実績値	5.4ha	7.4 ha	5.7ha	5.7ha
	成果指標	取水量1m <sup>3</sup> 当たり水源保全投資額	計画値	0.16 円/m <sup>3</sup>	0.16 円/m <sup>3</sup>	0.16 円/m <sup>3</sup>	0.16 円/m <sup>3</sup>
			実績値	0.16 円/m <sup>3</sup>	0.16 円/m <sup>3</sup>	0.16 円/m <sup>3</sup>	0.16 円/m <sup>3</sup>
		維持管理総面積に対する進捗率	計画値	16.7%	35.0%	52.1%	68.9%
			実績値	16.7%	39.7%	57.5%	75.2%
	達成率			計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
	自己評価			a	a	a	a
	外部評価						
	◎②下水道計画区域内の整備	活動指標	下水道の整備済面積	計画値	40ha	30ha	25ha
実績値				43ha	28ha	32ha	27ha
成果指標		下水道整備率(下水道整備済面積)	計画値	92.4% (8,975ha)	92.7% (9,005ha)	93.0% (9,030ha)	93.3% (9,055ha)
			実績値	92.5% (8,978ha)	92.8% (9,007ha)	93.1% (9,039ha)	93.4% (9,066ha)
達成率			100.1%	100.1%	100.1%	100.1%	
自己評価			a	a	a	a	
外部評価							
◎③水洗化戸数の増加	活動指標	臨戸訪問の実施	計画値	34,000 戸	40,000 戸	40,000 戸	40,000 戸
			実績値	40,201 戸	42,443 戸	43,335 戸	46,079 戸
	成果指標	水洗化率	計画値	90.4%	91.2%	91.4%	91.6%
			実績値	90.4%	90.7%	91.0%	91.1%
	達成率			100%	99.5%	99.6%	99.5%
	自己評価			a	a	a	a
外部評価							

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
④浄化センターからの放流水質の安定的な維持	活動指標	浄化センターからの放流水質の安定的な維持	計画値	実施	実施	実施	実施
			実績値	実施	実施	実施	実施
	成果指標	目標水質達成率 (BOD)	計画値	100%	100%	100%	100%
			実績値	99.3%	100%	99.0%	93.5%
		目標水質達成率 (SS)	計画値	100%	100%	100%	100%
			実績値	100%	100%	100%	100%
	達成率			計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
	自己評価			a	a	a	a
	外部評価						

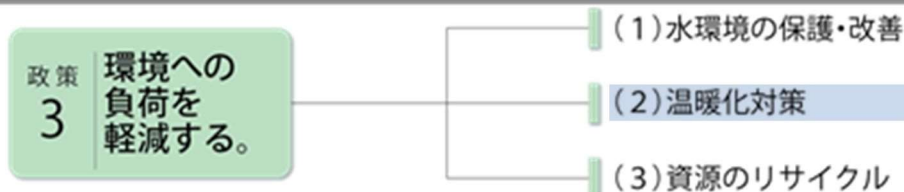
■ 施策評価

自己評価	A	<p>水環境の保護・改善について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、上下水道に係る水環境の保護・改善を図り、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
------	---	--



施策名	3-(2) 温暖化対策
目的	この施策は、「自然エネルギーの活用」及び「省エネルギー対策」の2つの事務事業により、自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷の軽減を目指すものである。

政策 -----> 施策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	① 自然エネルギーの活用 【共通】	<p><b>【b評価】</b>            自然エネルギーの活用について、令和4年度計画どおり「発電設備導入方針決定」を実施した。            具体的には地熱利用による温室効果ガス排出量の低減策として、既存水道施設の休止中の井戸を設備冷却に活用することとした。            また、再生可能エネルギー利用率は、令和4年度計画「0.16%」に対し「0.11%」の実績で、達成率は71.2%となった。次に温室効果ガス排出低減量は、令和4年度計画値「103t」に対し、「63t」の実績で、達成率は61.1%となった。2つの成果指標を勘案し、「b」評価とした。</p>	<p><b>【b評価】</b>            自然エネルギーの活用について、計画をやや下回っている。            新たな自然エネルギーの導入可能性の検討になお一層努めてほしい。            また、今後の導入に際しては、費用対効果を踏まえて検討を行うよう努めること。            (その他の意見)            自然エネルギーの活用に関しては、もっともっと大学・企業とコラボを検討してほしい。</p>
◎	② 省エネルギー対策 【共通】	<p><b>【c評価】</b>            省エネルギー対策について、活動指標上段の上下水道局庁舎等で使用するエネルギー量（以下、庁舎等使用エネルギー）は令和4年度計画「213kℓ」に対し、「204kℓ」の実績であった。庁舎内の昼休みや定時後不要箇所の消灯を実施した。庁舎内の照明器具はLED照明を採用している。            次に中段「飲料水の年間生産に必要なエネルギー量（以下、飲料水生産エネルギー）は令和4年度計画「8,070kℓ」に対し、「8,398kℓ」の実績であった。具体的な取組として、取水・送水ポンプ等の効率的な運用に努めた。            下段の下水の年間処理に必要なエネルギー量（以下、下水処理エネルギー）は令和4年度計画「12,857kℓ」に対し、「12,746kℓ」の実績であった。下水処理エネルギーでは、燃料化施設の運転や省エネ機器の導入を実施した。            また、二酸化炭素排出低減量（平成29年度比）は、3事業合計で令和4年度計画「267.1t」に対し、「-274.7t」の実績で、目標達成に向けて、成果が出ていないため「c」評価とした。</p>	<p><b>【c評価】</b>            省エネルギー対策について、計画を大きく下回っている。            省エネルギーに努める必要はあるものの、上下水道事業の性質上、これ以上の大幅な削減は難しいこと理解できる。            しかし、公営企業の責任として、改善可能な箇所については、引き続き検討・実施するよう努めること。            なお、致し方ない状況下だったとして、「b」評価とする意見もあった。</p>

## 2 改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

①自然エネルギーの活用	南安倍配水場の太陽光発電設備と西奈配水場の小水力発電は現在の体制で発電を継続すると共に新たな自然エネルギーの活用として水道施設の地熱利用による温室効果ガス排出量の低減を図る。
②省エネルギー対策	<p>●飲料水生産エネルギー</p> <p>安定給水の確保をしつつ、取水・導水・浄水及び配水過程における各施設の設備の能力、運転時間、電力使用量等の確認を行い、施設の運用や設備の運転・操作を工夫することで温室効果ガス排出量削減につながる効率の良い施設運用を行っていく。</p>

### ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

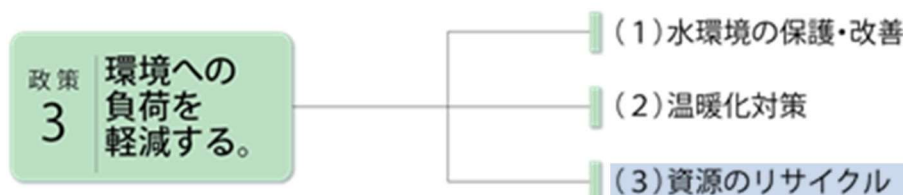
主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
◎	①自然エネルギーの活用	活動指標	自然エネルギーの活用	計画値	20kW [小水力]	導入可能性 検討	導入可能性 検討	発電設備導入 方針決定	
				実績値	20kW [小水力]	導入可能性 検討	導入可能性 検討	発電設備導入 方針決定	
		成果指標	再生可能エネルギー利用率	計画値	0.16%	0.16%	0.16%	0.16%	
				実績値	0.16%	0.16%	0.14%	0.11%	
		成果指標	温室効果ガス排出低減量 (t-CO2/年換算)	計画値	103t	103t	103t	103t	
				実績値	76t	85t	72t	63t	
		達成率				ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている
		自己評価				b	b	b	b
		外部評価				b	b	b	b
		◎	②省エネルギー対策	活動指標	上下水道局庁舎等で使用するエネルギー (原油換算)	計画値	213kℓ	213kℓ	213kℓ
実績値	205kℓ					212kℓ	204kℓ	203kℓ	
飲料水の年間生産に必要なエネルギー量 (原油換算)	計画値				8,094kℓ	8,086kℓ	8,078kℓ	8,070kℓ	
	実績値				8,360kℓ	8,318kℓ	8,311kℓ	8,398kℓ	
下水の年間処理に必要なエネルギー量 (原油換算)	計画値				12,893kℓ	12,881kℓ	12,869kℓ	12,857kℓ	
	実績値				12,638kℓ	12,667kℓ	12,781kℓ	12,746kℓ	
成果指標	二酸化炭素排出低減量 平成29年度比 (総排出量)			計画値	110.0 t (55,522.8t)	162.4 t (55,470.4t)	214.8 t (55,418.0t)	267.1 t (55,365.7t)	
				実績値	102.1t (55,530.7t)	117.6 t (55,515.2t)	-141.0t (55,773.8t)	-274.7t (55,907.3t)	
達成率				92.8%	72.4%	目標達成に向けて、成果が出ていない	目標達成に向けて、成果が出ていない		
自己評価				a	b	c	c		
外部評価				a	b	c	c		

## ■ 施策評価

自己 評価	C	<p>温暖化対策について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「C」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する事務事業のうち「自然エネルギーの活用」は令和3年度に引き続き計画を下回り、「省エネルギー対策」についても、令和3年度同様に目標を顕著に下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、自然エネルギーの活用や、一層の省エネルギー化を図り、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的について、達成されていないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「C」評価とした。</p>
----------	---	--

施策名	3-（3）	<b>資源のリサイクル</b>
目的	この施策は、「リサイクル率の向上」の事務事業により、再利用が可能な資源について、積極的にリサイクルを行うとともに、下水汚泥については、炭化炉の整備により燃料化を進め、エネルギー資源として活用するなどのリサイクル率を向上させ、環境への負荷の軽減を目指すものである。	

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	①リサイクル率の向上 【共通】	<p><b>【a 評価】</b> リサイクル率の向上について、清水地区の汚泥集約化事業を R1 年度完了している。 具体的な取組として、計画の継続のため R4 年度も下水汚泥の有効利用先調査を実施した。 また、成果指標である下水汚泥リサイクル率は R2 計画値の継続である「100%」に対して、実績値が「100%」となったため、「a」評価とした。</p>	

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

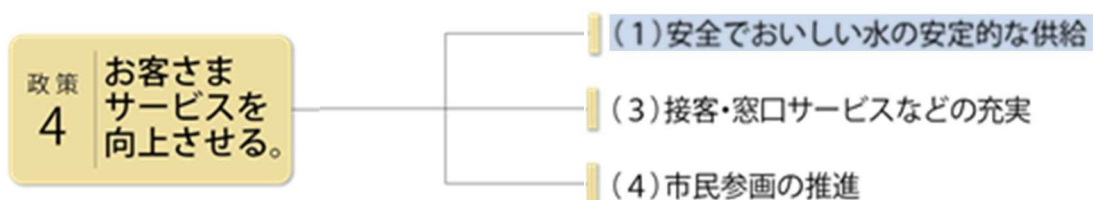
主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
◎	①リサイクル率の向上	活動指標	清水地区の汚泥集約化事業	計画値	完了	—	—	
				実績値	完了	—	—	
		成果指標	下水汚泥リサイクル率	計画値	94.0%	100%	—	—
				実績値	95.4%	100%	100%	100%
		達成率			101.5%	100%	100%	100%
		自己評価			a	a	a	a
外部評価								

## ■ 施策評価

自己 評価	A	<p>資源のリサイクルについて、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価となり、令和4年度についても、施策を構成する事務事業「リサイクル率の向上」は、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、再利用が可能な資源について、積極的にリサイクルを行うとともに、下水汚泥については、エネルギー資源として活用するなどのリサイクル率を向上させ、環境への負荷の軽減を目指す施策の目的が達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
----------	---	--

施策名	4-(1) <b>安全でおいしい水の安定的な供給</b>
目的	この施策は、「水道管の整備・充実」、「水道施設の整備・充実」、「直結給水サービスの拡大」、「水質管理・監視の充実」及び「鉛製給水管の更新」の5つの事務事業により、給水区域内の水道管や水道施設の整備・充実を図るとともに、水質管理・監視体制の充実、計画的な機器の更新を行い、安全でおいしい水を安定的に供給することを通じて、お客さまサービスの向上を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	① 水道管の整備・充実 <b>【水道】</b>	<p><b>【a 評価】</b> 水道管の整備・充実について、令和4年度計画「1.3 km」に対し、「2.1 km」実施した。 具体的な取組として、送水管、配水支管の新設調査・設計・工事を実施した。 成果指標である管路の新設率は令和4年度計画「0.05%」に対し、「0.08%」の実績で、達成率は160.0%となったが、令和3年度の未達成分による上積みによるものであることから、「a」評価とした。</p>	
◎	② 水道施設の整備・充実 <b>【水道】</b>	<p><b>【a 評価】</b> 水道施設の整備・充実について、令和4年度計画どおり「足久保配水場の供用開始」を実施した。 また、成果指標「未整備地区人口」は令和4年度計画どおり「約1,000人」の実施となり、「整備された地区の人口比」も計画どおり「37.5%」となり、いずれも達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	③直結給水サービスの拡大 【水道】	<p>【a 評価】</p> <p>直結給水サービスの拡大について、対象の拡大を令和4年度計画どおり「実施可能な地域の拡大検討」を実施した。次に直結給水のPR回数を令和4年度計画どおり「5回」実施した。具体的な取組として、水運用計画に合わせて対象地域の拡大検討、配水圧力調査、モデル施設の検証、直結給水に係る講習会においてPRを実施した。また、中高層建築物等直結給水率は令和4年度計画「80%以上」に対し、「79.61%」の実績で、達成率は99.5%となったため「a」評価とした。</p>	
◎	④水質管理・監視の充実 【水道】	<p>【a 評価】</p> <p>水質管理・監視の充実について、水質監視装置の更新を令和4年度計画どおり「4台」実施した。具体的な取組として、水安全計画においては、長熊浄水場の検証作業及び門屋浄水場編を改訂し、急速ろ過工程を追記した。水質検査においては、令和4年度水質検査計画に従って定期及び臨時の水質検査を実施し、全ての地点で水質基準値を満たした良好な水質であることを確認した。さらに、水道GLPに基づく検査体制の運用により、検査結果への信頼性を確保するとともに、水質検査機器の保守点検や更新を計画どおり実施し、高い検査精度を維持した。また、平均残留塩素濃度は令和4年度計画「0.4 mg/L 以下」に対し、「0.32 mg/L」の実績で目的達成に向けて計画どおり成果が出ているため「a」評価とした。</p>	
◎	⑤鉛製給水管の更新 【水道】	<p>【a 評価】</p> <p>鉛製給水管の更新について、鉛製給水管の更新を令和4年度計画「3,800箇所」に対し、「3,801箇所」を実施した。具体的な取組として、厚生労働省の水質基準を超える鉛が溶け出す恐れがある鉛製給水管をポリエチレン製の給水管に更新した。また、鉛製給水管率は令和4年度計画「7.7%」に対し、「7.3%」の実績で達成率は105.5%となったが、活動指標の実績はほぼ計画とおりのため「a」評価とした。</p>	

## ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
◎	①水道管の整備・充実	活動指標	水道管整備	計画値	3.8 km	5.0 km	2.7 km	1.3 km	
				実績値	3.8 km	4.7km	2.0km	2.1km	
		成果指標	管路の新設率	計画値	0.15%	0.19%	0.10%	0.05%	
				実績値	0.15%	0.18%	0.08%	0.08%	
		達成率				100%	94.7%	80.0%	計画どおり成果が出ている
		自己評価				a	a	b	a
		外部評価				/		b	/
◎	②水道施設の整備・充実	活動指標	水道施設整備	計画値	足久保配水場築造	足久保配水場築造	足久保配水場完成	足久保配水場供用開始	
				実績値	仮設の配管・ポンプ設置 既設の高架水槽・ポンプ棟撤去	配水池及び流量計室等の築造	ポンプ棟及び、電気・機械・滅菌設備完成	供用開始	
		成果指標	未整備地区人口	計画値	約 1,600 人	約 1,600 人	約 1,600 人	約 1,000 人	
				実績値	約 1,600 人	約 1,600 人	約 1,600 人	約 1,000 人	
			整備された地区の人口比	計画値	0%	0%	0%	37.5%	
				実績値	0%	0%	0%	37.5%	
		達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価				/		/	/
		◎	③直結給水サービスの拡大	活動指標	対象の拡大	計画値	中高層建築物直結給水認可(5階まで)	直列多段増圧給水認可(10階程度)	実施可能な地域の拡大検討
実績値	中高層建築物直結給水認可(5階まで)					直列多段増圧給水認可(10階程度)	実施可能な地域の拡大検討	実施可能な地域の拡大検討	
直結給水のPR回数	計画値				5回	5回	5回	5回	
	実績値				5回	5回	5回	5回	
成果指標	中高層建築物等直結給水率			計画値	70%以上	70%以上	80%以上	80%以上	
				実績値	73.14%	80.99%	83.87%	79.61%	
達成率				104.5%	115.7%	104.8%	99.5%		
自己評価				a	s	a	a		
外部評価				/		/	/		



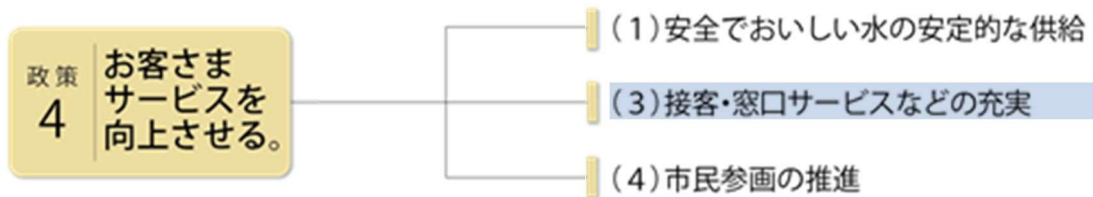
主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
◎	④水質管理・監視の充実	活動指標	水質監視装置の更新台数	計画値	4 台	4 台	4 台		
				実績値	4 台	4 台	4 台		
		成果指標	残留塩素濃度	計画値	0.4 mg/L 以下	0.4 mg/L 以下	0.4 mg/L 以下	0.4 mg/L 以下	
				実績値	0.29 mg/L	0.29 mg/L	0.29 mg/L	0.32 mg/L	
		達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価							
◎	⑤鉛製給水管の更新	活動指標	鉛製給水管の更新	計画値	3,700 箇所	3,800 箇所	3,800 箇所		
				実績値	3,741 箇所	3,804 箇所	3,811 箇所		
		成果指標	鉛製給水管率	計画値	11.6%	10.3%	9.0%	7.7%	
				実績値	11.1%	9.9%	8.6%	7.3%	
		達成率				104.5%	104.0%	104.7%	105.5%
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価							

### ■ 施策評価

自己評価	A	<p>安全でおいしい水の安定的な供給について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、成果が出ている。</p> <p>以上のことから、給水区域内の水道管や水道施設の整備・充実を図るとともに、水質管理・監視体制の充実、計画的な機器の更新を行い、安全でおいしい水を安定的に供給することを通じて、お客さまサービスの向上を目指す施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
------	---	--

施策名	4-(3) <b>接客・窓口サービスなどの充実</b>
目的	この施策は、「料金支払いの利便性の向上」、「サービス体制の再構築」及び「地域貢献」の3つの事務事業により、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、お客さまサービスの向上を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	①料金支払いの利便性の向上 【共通】	<p><b>【a評価】</b> 料金支払いの利便性の向上について、令和4年度計画「新たな納付方法、請求方法等の導入・検討」として令和4年10月から「auPAYによる決済」を追加導入した。また、料金システムが更新される令和6年10月に募集開始を予定しているクレジットカード決済については、指定納付受託者や決済代行会社、事務手続きに係る事項などの確認・検討を行ったほか、例規改正や申請サイト構築等に係る予算要求（債務負担行為）を行った。</p> <p>また、水道料金収納率（現年度・5月末）は令和4年度計画「99.21%」に対し「99.06%」の実績で、達成率は99.8%、下水道使用料収納率（現年度・5月末）は令和4年度計画「99.15%」に対し「99.08%」の実績で、達成率は99.9%となった。2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p>	/
◎	②サービス体制の再構築 【共通】	<p><b>【a評価】</b> サービス体制の再構築について、サービス対策の再構築を令和4年度計画「継続実施導入計画策定」に対し、「次期包括業務委託契約」を実施した。</p> <p>具体的な取組として、業務仕様の見直し、更なる委託範囲の拡大を検討し、業務仕様を一部修正したうえで「次期包括業務委託契約」を締結した。さらに次世代型サービスの導入検討として、「次</p>	/

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
		<p>世代型サービスの導入検討として、「次世代型サービス提供検討資料作成業務委託」を実施し、検討を進めた。</p> <p>また、水道料金収納率（現年度・5月末）は令和4年度計画「99.21%」に対し「99.06%」の実績で、達成率は99.8%、下水道使用料収納率（現年度・5月末）は令和4年度計画「99.15%」に対し「99.08%」の実績で、達成率は99.9%となった。2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p>	/
	<p>③地域貢献 【共通】</p>	<p><b>【c評価】</b> 地域貢献について、地域貢献活動回数を令和4年度計画「20回以上」に対し、「30回」実施した。具体的な取組として、①高齢者等見守り支援1回 ②庁舎周辺美化活動1回 ③上下水道フェア1回 ④水道・下水道施設見学会26回 ⑤河川・海岸清掃1回の計30回を実施した。</p> <p>また、地域貢献参加職員数は令和4年度計画「1,000人以上」に対し、「345人」の実績となった。</p> <p>前年度より続くコロナ禍や台風15号災害対応などにより、多くの事業が実施できなかった。上下水道フェアも、当初上下水道局庁舎を会場とする取組も進めていたが、感染症拡大防止のため直前で中止となった（ただし、市HPを活用したオンライン企画は実施）。また、感染拡大状況を見据え、実施可能な活動をタイミングよく実施（美化活動・施設見学）するとともに、感染対策を徹底し対応可能な活動（施設見学（令和3年度：6回→令和4年度：26回））を取り入れるなど、活動の見直しを図り成果も上がったが、引き続き事業の安定運営を守るため、参加職員数を制限するなど対策を徹底したことなどから、参加職員数は目標に届かず達成率は、34.5%となったため、「c」評価とした。</p>	<p><b>【c評価】</b> 地域貢献について、計画を大きく下回っている。</p> <p>地域貢献活動から、上下水道事業を知る機会につながることから、今までと同様の取組でなく、新たな地域貢献活動を生み出し、市民との信頼関係の構築に努めること。</p> <p>なお、前年度より実績が向上したことや、コロナ禍や台風15号災害対応の中での地域貢献活動の実施について、計画を達成できないのは致し方ないこととして、「b」とする評価もあった。</p> <p>(その他の意見) 新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえ、計画人数の再検討をしてはどうか。</p>

## 2 改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

<p>③地域貢献</p>	<p>コロナ禍であることを踏まえ、感染拡大に伴う事業の安定運営への支障を考慮し、活動時期や感染拡大防止対策の徹底を行うとともに、開催方法（非接触型・職員の参加数）など工夫に努める。</p>
--------------	--

## ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
◎	①料金支払いの利便性の向上	活動指標	多様化する納付方法及び請求方法等の検討	計画値	新たな納付方法、請求方法等の導入決定	新たな納付方法、請求方法等の導入	新たな納付方法、請求方法等の導入・検討		
				実績値	令和2年度中の電子マネー等による納付書納付方法の導入決定	令和2年6月から順次新たな納付方法、請求方法等を導入	令和6年10月以降のクレジットカードによる決済の導入決定		
		成果指標	水道料金収納率(現年度・5月末)	計画値	99.06%	99.11%	99.16%	99.21%	
				実績値	98.98%	99.02%	99.10%	99.06%	
			下水道使用料収納率(現年度・5月末)	計画値	99.00%	99.05%	99.10%	99.15%	
				実績値	98.96%	99.06%	99.11%	99.08%	
		達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価							
		◎	②サービス体制の再構築	活動指標	サービス体制の再構築	計画値	継続実施	次期包括業務委託・工程表策定	継続実施 導入計画検討
実績値	次期包括業務委託契約					次期包括業務委託・工程表策定	継続実施 導入計画検討		
成果指標	水道料金収納率(現年度・5月末)			計画値	99.06%	99.11%	99.16%	99.21%	
				実績値	98.98%	99.02%	99.10%	99.06%	
	下水道使用料収納率(現年度・5月末)			計画値	99.00%	99.05%	99.10%	99.15%	
				実績値	98.96%	99.06%	99.11%	99.08%	
達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている		
自己評価				a	a	a	a		
外部評価									
	③地域貢献			活動指標	地域貢献活動回数	計画値	20回以上	20回以上	20回以上
		実績値	20回			9回	12回		
		成果指標	地域貢献参加職員数(延べ)	計画値	1,000人以上	1,000人以上	1,000人以上		
				実績値	903人	379人	660人		
		達成率				90.3%	37.9%	66.0%	34.5%
		自己評価				a	c	c	c
		外部評価					c	c	c

## ■ 施策評価

自己 評価	B	<p>接客・窓口サービスなどの充実について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する3つの事務事業のうち2つの事務事業は計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「地域貢献」の事務事業は、一部事業内容の変更により、実施回数や参加職員数に改善が見られたが、令和3年度に引き続き計画を大きく下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、多様化・高度化するお客さまニーズを的確に把握し、迅速に対応することで、お客さまサービスの向上を目指す施策の目的について一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
----------	---	---

施策名	4-(4) 市民参画の推進
目的	この施策は、「静岡市上下水道事業経営協議会の開催」、「協働事業の検討・実施」、「積極的な広報活動」及び「広聴機能の充実」の4つの事務事業により、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえよう、積極的かつわかりやすい内容の広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	①静岡市上下水道事業経営協議会の開催 【共通】	<p><b>【a評価】</b></p> <p>静岡市上下水道事業経営協議会の開催について、令和4年度計画「6回」に対し、「5回」実施した。</p> <p>具体的な取組として、第4次中期経営計画の行政評価の実施、次期下水道使用料改定に係る協議、基本計画である経営戦略の策定に関する意見聴取など、計画していた議事は全て終了した。なお、開催回数を1回減としたのは、令和4年台風第15号の影響によるものである。</p> <p>各委員からの意見については、反映できることは反映し、反映ができない意見については、その理由を明確にし、委員の理解を得ることができた。</p> <p>また、「意見書、報告書等の提出回数」は、令和4年度計画どおり「3回」の実績で、達成率は100%となった。次に「行政評価への対応率」は、令和4年度計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となった。2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p>	
	②協働事業の検討・実施 【共通】	<p><b>【s評価】</b></p> <p>協働事業の検討・実施について、協働事業の件数(各種事業に協力した団体数)を令和4年度計画「11件」に対し、「15件」実施した。</p> <p>具体的な取組として、上下水道フェアは新型コロナウイルス感染拡大により、局庁舎での体験型イベントとしての開催は中止となったが市HP上でオンラインで開催したほか、民間企業との連携事業など市民等との協働事業を行った。</p> <p>また、イベント等来客数について、特に民間企</p>	

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
		業との連携事業では、本市が提携する企業と初めて協働事業を実施し、「静岡のおいしい水」のPRに加え、「応急給水拠点を記載したチラシの配布」、「給水袋の重さを体感するコーナーの設置」などを行った。取組を通じてチラシ作成、報道への投げ込みなどの広報に努め、その他の事業と併せて令和4年度計画「5,000人」に対し、「10,344人」となり、達成率は206.9%となったため、「s」評価とした。	
◎	③積極的な 広報活動 【共通】	<p><b>【s評価】</b> 積極的な広報活動について、広報関連イベントの展開数を令和4年度計画「120回」に対し、「63回」実施した。SNS等への掲載回数は、令和4年度計画「12回」に対し、「13回」実施した。 具体的な取組として、水道週間に静鉄バスへのポスター掲示や水の週間に上下水道フェア等を実施した。 また、メディア露出度は令和4年度計画「10回」に対し、「24回」の実績で、達成率240%となったため、「s」評価とした。</p>	
	④広聴機能 の充実 【共通】	<p><b>【a評価】</b> 広聴機能の充実について、広聴活動を令和4年度計画「30回以上」に対し、「55回」実施した。 具体的な取組として、市政出前講座や上下水道モニター、イベント等でのアンケート調査等を実施した。 また、上下水道事業に対する市民理解度は令和4年度計画「80%以上」に対し、「83.2%」の実績で、達成率104%となったため、「a」評価とした。</p>	

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
◎	①静岡市上下水道事業経営協議会の開催	活動指標	協議会の開催回数	計画値 5回	4回	5回	6回
			実績値 5回	4回	5回	5回	
		成果指標	意見書、報告書等の提出回数	計画値 2回	2回	1回	3回
				実績値 2回	2回	1回	3回
			行政評価*への対応率	計画値 100%	100%	100%	100%
				実績値 100%	100%	100%	100%
		達成率			計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
自己評価			a	a	a	a	

主要	事務事業名	外部評価			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		指標						
②協働事業の検討・実施	活動指標	協働事業の件数	計画値	9件	10件	10件	11件	
			実績値	12件	8件	8件	15件	
	成果指標	イベント等来客数	計画値	5,000人	5,000人	5,000人	5,000人	
			実績値	5,005人	9,746人	1,706人	10,344人	
	達成率			100.1%	計画どおりの成果が出ている	34.1%	206.9%	
	自己評価			a	a	c	s	
	外部評価					c		
◎ ③積極的な広報活動	活動指標	広報関連イベントの展開数	計画値	120回	120回	120回	120回	
			実績値	130回	47回	54回	63回	
		SNS等への掲載回数	計画値			12回	12回	
			実績値			11回	13回	
	成果指標	ホームページの掲載回数	計画値	10回	10回			
			実績値	10回	28回			
		メディア露出度	計画値			10回	10回	
			実績値			9回	24回	
	達成率			100%	計画どおりの成果が出ている	90.0%	240%	
	自己評価			a	a	a	s	
外部評価								
④広聴機能の充実	活動指標	広聴活動	計画値	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	
			実績値	48回	52回	56回	55回	
	成果指標	上下水道事業に対する市民理解度	計画値	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上	
			実績値	76.5%	80.1%	81.4%	83.2%	
	達成率			95.6%	100.1%	101.8%	104%	
	自己評価			a	a	a	a	
外部評価								



## ■ 施策評価

自己 評価	A	<p>市民参画の推進について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する4つの事務事業のうち、2つの事務事業は計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ており、2つの事務事業は、計画を上回る成果となった。</p> <p>以上のことから、お客さまを含めた上下水道にかかわる様々な関係者との連携や信頼関係のもと事業を進め、上下水道事業の現状を正しく認識してもらえよう、積極的かつわかりやすい内容の広報活動に努めることで、お客さまサービスの向上を目指すという施策の目的がおおむね達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
----------	---	--

施策名	5-(1) <b>業務の効率化</b>
目的	この施策は、「機能的な組織づくり」、「上下水道の資産・資源の有効活用」及び「マッピングシステムの運用拡大」の3つの事務事業により、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、業務の見直しや組織再編により、適正な職員数で事業を実施するとともに、必要な技術を残しながら、業務委託の活用などの民間手法を取り入れ、人員の最適化に努めることで、信頼される経営の確立を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	①機能的な組織づくり <b>【共通】</b>	<p><b>【a評価】</b> 機能的な組織づくりについて、適正な人員配置を令和4年度計画どおり「実施・検証」した。具体的な取組として、水道部・下水道部において、次期中期経営計画の作成に向けて、令和5年度以降の組織・業務の再編のありかたについての検討や、内部統制機能の充実に向けた検討を行った。</p> <p>また、職員定数の適正化、組織体制の整備及び組織・業務の再編は、令和2年度以降の検討に基づき、経営基盤の更なる強化、危機管理体制の強化及び効率的な事務執行体制の構築のため、経営管理部を新設する令和4年度計画どおり「実施」し、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p>	
◎	②上下水道の資産・資源の有効活用 <b>【共通】</b>	<p><b>【a評価】</b> 上下水道の資産・資源の有効活用について、令和4年度計画どおり「(緊急時)運用・検証、(平常時)制度設定」を実施した。</p> <p>令和4年9月、台風15号の影響により清水区で発生した6万戸を超える大規模断水が発生した際は、令和2年7月に清水区で発生した濁水事故対応の知見を活かし、下水道部の応援を得て断水対応を行った。また、今回の大規模断水の対応についての検証を実施した際は、緊急時のヒト(人材)の有効活用の見地からの検証も行った。一方、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止されていた平常時の市民に対する「防災出</p>	

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
		前講座」においては、両部共同で講座内容を吟味し、上下水道一体となった講座内容とし、市民に向けて「自助」「共助」の必要性のさらなる周知徹底を図った。 また、事業の健全な経営は令和4年度計画どおり「実施」し、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。	/
	③マッピングシステムの運用拡大【水道】	<p><b>【a評価】</b> マッピングシステムについて、令和4年度計画どおり「機器更新と運用拡大」を実施した。 具体的な取組として、仕様書をもとに機器の更新を行い、追加機能として管網解析システムを導入した。 運用拡大の進捗率は令和4年度計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
①機能的な組織づくり	活動指標	適正な人員配置	計画値	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証
			実績値	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証
	成果指標	職員定数の適正化 組織体制の整備 組織、業務の再編	計画値	実施	実施	実施	実施
			実績値	実施	実施	実施	実施
	達成率			計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
	自己評価			a	a	a	a
外部評価			/	/	/	/	
◎ ②上下水道の資産・資源の有効活用	活動指標	経営資源の活用	計画値	(緊急時)運用・検証 (平常時)検討	(緊急時)運用・検証 (平常時)制度設計	(緊急時)運用・検証 (平常時)運用・検証	(緊急時)運用・検証 (平常時)運用・検証
			実績値	(緊急時)運用・検証 (平常時)検討	(緊急時)運用・検証 (平常時)制度設計	(緊急時)運用・検証 (平常時)運用・検証	(緊急時)運用・検証 (平常時)運用・検証
	成果指標	事業の健全な経営	計画値	実施	実施	実施	実施
			実績値	実施	実施	実施	実施
	達成率			計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
	自己評価			a	a	a	a
外部評価			/	/	/	/	

主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
③マッピングシステムの運用拡大	活動指標	マッピングシステムの運用拡大	計画値	運用拡大の検討	運用拡大の検討	運用拡大の検討	機器更新と運用拡大
			実績値	運用拡大の検討	運用拡大の検討	運用拡大の検討	機器更新と運用拡大
	成果指標	運用拡大の進捗率	計画値	30%	50%	80%	100%
			実績値	30%	50%	80%	100%
	達成率			100%	100%	100%	100%
	自己評価			a	a	a	a
	外部評価						

### ■ 施策評価

自己評価	A	<p>業務の効率化について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、将来にわたって安定的に事業を継続できるよう、業務の見直しや組織再編により、適正な職員数で事業を実施するとともに、必要な技術を残しながら、業務委託の活用などの民間手法を取り入れ、人員の最適化に努めることで、信頼される経営の確立を目指す施策の目的が達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
------	---	--

施策名	5 - (2) <b>職員の技術習得</b>
目的	この施策は、「各種研修の充実」及び「技術継承の仕組みづくり」の2つの事務事業により、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	①各種研修の充実 【共通】	<p><b>【b評価】</b> 各種研修の充実について、技術・事務の専門研修への派遣を令和4年度計画「135人」に対し、「134人」派遣した。次に、契約事務・法務等の内部研修の受講を令和4年度計画どおり「350人」受講した。</p> <p>さらに、新採職員・転入者に向けた基礎研修の実施を令和4年度計画「2回」に対し、「3回」実施した。加えて、技術系職員に向けたICT研修の開催を令和4年度計画どおり「3回」開催した。</p> <p>具体的な取組として、日本水道協会、日本下水道事業団等主催の研修への派遣、上下水道局転入職員研修等の実施、デジタル技術活用研修等を開催した。</p> <p>なお、水道技術に関する資格取得度は令和4年度計画「1.7件/人」に対し、「1.5件/人」の実績で、達成率は88.2%となった。次に水道部と下水道部両部の外部研修時間は令和4年度計画「8.5時間/人」に対し、「7.2時間/人」の実績で、達成率は84.7%となった。さらに水道部と下水道部両部の内部研修時間は令和4年度計画「10.0時間/人」に対し、「8.8時間/人」の実績で、達成率は88.0%となった。3つの成果指標には前年度実績を上回る成果を達成したものもあるが、目標に達していない部分もあることから、総合的に評価し「b」評価とした。</p>	<p><b>【b評価】</b> 各種研修の充実について、計画をやや下回っている。</p> <p>研修の充実が職員のスキル向上等につながることから、研修形態（オンライン等）を検討し、達成するように努めること。</p>

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	②技術継承の仕組みづくり 【共通】	<p>【a評価】</p> <p>技術継承の仕組みづくりについて、令和4年度計画どおり「実施・検証」した。具体的な取組として、エスナビの受講を推進した。さらに、令和5年度採用につながるよう、高校生を対象にインターシップを実施した。</p> <p>また、エスナビ研修受講率は令和4年度計画どおり「100%」の実績で達成率は100%となった。次に水道技術職員採用人数は令和4年度計画どおり「1人」の実績となった。2つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p>	

## 2 改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

①各種研修の充実	研修日程変更などに柔軟対応するために、代替日の設定やオンライン型の研修割合を増やす。
----------	--

### ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
◎	①各種研修の充実	活動指標	研修・資格取得計画に則った研修の実施	計画値	実施	実施		
			実績値	実施	実施不可			
			技術・事務への専門研修への派遣	計画値			135人	135人
				実績値			84人	134人
			契約事務・法務等への内部研修の受講	計画値			350人	350人
				実績値			323人	350人
			新採職員・転入者に向けた基礎研修の実施	計画値			2回	2回
				実績値			2回	3回
			技術系職員に向けたICT研修の開催	計画値			3回	3回
				実績値			3回	3回
			水道技術に関する資格取得度	計画値	1.4件/人	1.4件/人	1.6件/人	1.7件/人
				実績値	1.4件/人	1.7件/人	1.5件/人	1.5件/人
			外部研修時間	計画値	8.5時間/人	8.5時間/人	8.5時間/人	8.5時間/人
				実績値	8.5時間/人	2.1時間/人	5.1時間/人	7.2時間/人
			内部研修時間	計画値	9.0時間/人	9.3時間/人	9.6時間/人	10.0時間/人
				実績値	9.2時間/人	7.6時間/人	9.2時間/人	8.8時間/人

		達成率		計画どおり成果が出ている	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	ある程度成果が出ているが、目標をやや下回っている	
		自己評価		a	b	b	b	
		外部評価		a	b	b	b	
主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
◎	②技術継承の仕組みづくり	活動指標	技術継承の仕組み	計画値	実施・検証	実施・検証	実施・検証	
				実績値	実施・検証	実施・検証	実施・検証	
		成果指標	エスナビ研修受講率	計画値	100%	100%	100%	100%
				実績値	100%	100%	100%	100%
			水道技術職員採用人数	計画値	0人	1人	1人	1人
				実績値	0人	1人	1人	1人
		達成率		計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	
		自己評価		a	a	a	a	
		外部評価		a				

■ 施策評価

自己評価	B	<p>職員の技術習得について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する2つの事務事業のうち、「技術継承の仕組みづくり」の事務事業は、計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし「各種研修の充実」の事務事業は、一部事業内容の変更により、内部・外部研修とも一人当たりの受講時間数に改善が見られたが、令和3年度に引き続き計画を下回る実施となった。</p> <p>以上のことから、職員数の減少によるサービスの低下を招かないよう、機能的な組織づくりに努め、人材育成、知識・技術の継承等を推進することで、信頼される経営の確立を目指す施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
------	---	--

施策名	5-(3) 財政の健全化
目的	この施策は、「新たな収入の確保」、「企業債残高の適正な管理」、「財政計画の定期的な見直し」、「適正な債権管理」及び「収納率の向上」の5つの事務事業により、未収金を減らし料金・使用料の増収を図り、新たな財源の確保、企業債残高の適正管理及び経常的な費用の圧縮に努めることで、信頼される経営の確立を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	①新たな収入の確保 【共通】	<p><b>【b評価】</b> 新たな収入の確保について、長期債券購入では令和4年度計画どおり、水道は「2億円」、下水道は「11億円」購入し、水道事業では10年満期の電力債、下水道事業では20年満期の地方公募債などを購入した。</p> <p>また、新たな収入の検討では、令和4年度計画どおり「資産の有効活用検討」を実施し、庁舎駐車場の有料貸し出しについて、再公募を実施するとともに、局が保有する土地や建物などの資産について、新規貸付の募集やその他有効活用の検討を実施した。</p> <p>成果指標である利益収入増加額としては、水道事業では、令和4年度計画「1,772千円」に対し、「1,825千円」の実績で、達成率は103.0%、下水道事業では令和4年度計画「7,902千円」に対し、「7,703千円」の実績で、達成率は97.5%となった。</p> <p>新たな収入額としては、庁舎駐車場賃貸借業務において、再公募が契約に至らなかったものの、水道用地の新規貸付及び使用済みリモートメーターの分解分別売却により、令和4年度計画「7,154千円」に対し、「2,629千円」の実績で、達成率は36.8%であった。</p> <p>計画値と実績値の総額による達成率が72.2%であるため「b」評価とした。</p>	<p><b>【b評価】</b> 新たな収入の確保について、計画をやや下回っている。 受け身ではなく、こちらから積極的に働きかけていく姿勢は評価できる さらに他の自治体や企業の例を取り入れるなど模索してほしい。 難しい取組ではあるが、財源の確保につながるため進めていただきたい。</p>



主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
◎	② 企業債残高の適正な管理 【共通】	<p><b>【a 評価】</b>            企業債残高の適正な管理について、水道事業の企業債借入額及び元金償還金が令和4年度計画「35億円」及び「25億円」に対し、「17億円」及び「24億円」となった。次に下水道事業の企業債借入額及び元金償還金が令和4年度計画「89億円」及び「102億円」に対し、「71億円」及び「102億円」となった。</p> <p>具体的な取組として、借入と償還を計画的に行い、企業債への過度な依存とならないよう適正な管理を実施した。</p> <p>また、水道事業の年度末における企業債残高は、令和4年度計画「453億円」に対し、「437億円」の実績で、達成率は103.7%となった。次に下水道事業の年度末における企業債残高は、令和4年度計画「1,406億円」に対し、「1,388億円」の実績で、達成率は101.3%となった。2つの成果指標を勘案し、目標達成に向けて、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p>	<p><b>【a 評価】</b>            企業債残高の適正な管理について、計画どおりに進捗している。</p> <p>固定経費が多いと、運転の工夫が費用の節減に生きてこないため、企業債残高の減少を目指し、引き続き適正な管理に努めること。</p>
	③ 財政計画の定期的な見直し 【共通】	<p><b>【a 評価】</b>            財政計画の定期的な見直しについて、次期財政計画（R5～R8）の策定を令和4年度計画どおり「策定」を完了した。</p> <p>具体的な取組として、「静岡市上下水道事業経営戦略」における財政計画について、次期計画期間中における事業を各事業課に確認し、収支の試算等を実施した。</p> <p>また、水道事業、下水道事業ともに計画策定進捗率は令和4年度計画どおり「100%」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	/
	④ 適正な債権管理 【共通】	<p><b>【a 評価】</b>            適正な債権管理について、活動指標上段の「水道料金・下水道使用料の使用者に対する現住所等調査」を、令和4年度計画「1,800件以上」に対し、「2,077件」実施した。</p> <p>中段の「受益者負担金における滞納歴が浅い人への重点督促」を計画「1回以上」に対し、「1回」実施し、下段の「受益者負担金滞納者への強制徴収」を計画どおり実施した。</p> <p>次に成果指標の指標名上段の「水道料金未収金」は、令和4年度計画「201,666千円」に対し、「178,548千円」の実績で、計画値より未収金を11.5%削減した。中段の「下水道使用料未収金」は、令和4年度計画「188,332千円」に対し、「183,161千円」の実績で、計画値より未収金を2.7%削減した。下段の「過年度受益者負担金収納率」</p>	/

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
		<p>は強制徴収を実施した結果、令和4年度計画「12.06%」に対し「15.69%」の実績で、達成率は130%となった。</p> <p>3つの成果指標の勘案し、計画どおり成果が出ているため「a」評価とした。</p>	
◎	<p>⑤ 収納率の向上 【共通】</p>	<p><b>【a評価】</b></p> <p>収納率の向上について、活動指標の実施内容上段の「給水停止予告通知書発送」を令和4年度計画「19,000通」に対し、「18,792通」実施した。中段の「受益者負担金一括納付の勧奨」を、令和4年度計画どおり「3回」、下段の「申告書提出督促実施」を計画どおり「1回」実施した。</p> <p>なお、給水停止予告通知書発送について、実績値が計画値を下回る結果となった要因は、給水停止に至る前の現年催告の実施強化により予告通知書発送対象者を削減できたこと及び昨年9月の台風15号の影響を鑑み10月の予告通知書の発送を中止したことによる。</p> <p>次に成果指標の指標名上段の「水道料金収納率」は令和4年度計画「99.21%」に対し、「99.06%」の実績で、達成率は99.8%となった。中段の「下水道使用料収納率」は令和4年度計画「99.15%」に対し、「99.08%」の実績で、達成率は99.9%となった。</p> <p>下段の「受益者負担金収納率」は令和4年度計画「93.67%」に対し、「98.42%」の実績で、達成率は105%となった。3つの成果指標を勘案し、「a」評価とした。</p>	<p><b>【a評価】</b></p> <p>収納率の向上について、計画どおりに進捗している。</p> <p>負担の公平性確保や安定した事業継続のため、今後も収納率の向上に努めること。</p>

## ■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		
①新たな収入の確保	活動指標	長期債券購入額 水道(累計)	計画値	2億円 (12億円)	2億円 (14億円)	2億円 (16億円)	2億円 (18億円)		
			実績値	2億円 (12億円)	2億円 (14億円)	2億円 (16億円)	2億円 (18億円)		
		長期債券購入額 下水道(累計)	計画値	/	/	11億円 (11億円)	11億円 (22億円)		
			実績値	/	/	11億円 (11億円)	11億円 (22億円)		
		新たな収入 の検討	計画値	—	庁舎駐車場 賃貸借	資産の有効 活用検討	資産の有効 活用検討		
			実績値	—	庁舎駐車場 賃貸借	資産の有効 活用検討	資産の有効 活用検討		
		成果指標	利息収入 増加額	水道	計画値	806千円 (2,718千円)	1,128千円 (3,040千円)	1,450千円 (3,362千円)	1,772千円 (3,684千円)
					実績値	784千円 (2,696千円)	1,036千円 (2,949千円)	1,304千円 (3,217千円)	1,825千円 (3,738千円)
				下水道	計画値	/	/	2,601千円	7,902千円
					実績値	/	/	2,456千円	7,703千円
	新たな 収入額		計画値	—	7,154千円	7,154千円	7,154千円		
			実績値	—	7,154千円	0千円	2,629千円		
	達成率				97.2%	計画どおり成 果が出ている	目標達成に向 けて、成果が 出していない	ある程度成果 が出ている が、目標をや や下回ってい る。	
	自己評価				a	a	c	b	
	外部評価				/	/	c	b	

主要	事務事業名	指標		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
◎	②企業債残高の適正な管理	活動指標	水道 企業債借入額 (上段)	計画値	24億円	30億円	38億円	35億円	
				実績値	21億円	21億円	26億円	17億円	
			元金償還金 (下段)	計画値	23億円	23億円	24億円	25億円	
				実績値	23億円	23億円	24億円	24億円	
			下水道 企業債借入額 (上段)	計画値	113億円	89億円	94億円	89億円	
				実績値	96億円	90億円	86億円	71億円	
				元金償還金 (下段)	計画値	109億円	107億円	105億円	102億円
					実績値	109億円	106億円	105億円	102億円
		成果指標	年度末における 企業債残高	計画値	446億円	450億円	455億円	453億円	
				実績値	443億円	441億円	443億円	437億円	
			上段：水道 下段：下水道	計画値	1,473億円	1,438億円	1,428億円	1,406億円	
				実績値	1,456億円	1,439億円	1,420億円	1,388億円	
		達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
		自己評価				a	a	a	a
外部評価				a	a	a	a		
	③財政計画の定期的な見直し	活動指標	次期財政 計画の策定	計画値	見直し	見直し	素案	策定	
				実績値	見直し	見直し	素案	策定	
		成果指標	計画策定 進捗率 上段：水道 下段：下水道	計画値	25%	50%	75%	100%	
				実績値	25%	50%	75%	100%	
				計画値	25%	50%	75%	100%	
				実績値	25%	50%	75%	100%	
		達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
		自己評価				a	a	a	a
		外部評価							

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
④適正な債権管理	活動指標	水道料金・下水道使用料の使用者に対する現住所等調査	計画値	1,800 件以上	1,800 件以上	1,800 件以上	1,800 件以上	
			実績値	2,580 件	2,691 件	1,895 件	2,077 件	
		受益者負担金における滞納歴が浅い人への重点督促	計画値	1 回以上	1 回以上	1 回以上	1 回以上	
			実績値	1 回	2 回	1 回	1 回	
		受益者負担金滞納者への強制徴収	計画値	条件整理	実施手順策定	実施	実施	
			実績値	条件整理完了 手順策定一部完了	実施手順策定	実施	実施	
		成果指標	水道料金未収金	計画値	316,585 千円	296,388 千円	204,175 千円	201,666 千円
				実績値	212,953 千円	206,685 千円	202,104 千円	178,548 千円
			下水道使用料未収金	計画値	257,625 千円	242,111 千円	200,656 千円	188,332 千円
				実績値	233,849 千円	212,981 千円	194,975 千円	183,161 千円
			過年度受益者負担金収納率	計画値	9.41%	11.96%	12.01%	12.06%
				実績値	24.00%	12.89%	28.50%	15.69%
	達成率				目標以上の成果があがっている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている
	自己評価				s	a	a	a
	外部評価							
	◎ ⑤収納率の向上	活動指標	給水停止予告通知書発送	計画値	19,000 通	19,000 通	19,000 通	19,000 通
				実績値	19,085 通	19,163 通	17,077 通	18,792 通
受益者負担金一括納付の勧奨			計画値	3 回	3 回	3 回	3 回	
			実績値	3 回	3 回	3 回	3 回	
申告書提出督促実施			計画値	1 回	1 回	1 回	1 回	
			実績値	1 回	1 回	1 回	1 回	
成果指標		水道料金収納率	計画値	99.06%	99.11%	99.16%	99.21%	
			実績値	98.98%	99.02%	99.10%	99.06%	
		下水道使用料収納率	計画値	99.00%	99.05%	99.10%	99.15%	
			実績値	98.96%	99.06%	99.11%	99.08%	
		受益者負担金収納率	計画値	93.52%	93.57%	93.62%	93.67%	
			実績値	95.53%	95.66%	95.56%	98.42%	
達成率				計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	計画どおり成果が出ている	
自己評価				a	a	a	a	
外部評価				a	a	a	a	

## ■ 施策評価

自己 評価	B	<p>財政の健全化について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「B」評価としている。</p> <p>令和4年度は、施策を構成する5つの事務事業のうち、4つの事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>しかし、令和3年度評価が「c」評価であった「新たな収入の確保」の事務事業は、新たな取組により料金・使用料以外の収益増となったものの計画値を下回る結果となった。</p> <p>以上のことから、未収金を減らし水道料金・下水道使用料の増収を図り、新たな財源の確保、企業債残高の適正管理及び経常的な費用の圧縮に努めることで、信頼される経営の確立を目指すという施策の目的について、一定程度成果が出ているが、達成されているとは言えないため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「B」評価とした。</p>
----------	---	---

## 2 改善に向けた取組

本協議会に対し、上下水道局から次のような取組方針が示された。

①新たな収入 の確保	<p>庁舎駐車場賃貸借業務では、運業者の再公募を行っていたが、今後は地域貢献のためイベントスペースとしての利用や災害時の緊急駐車場としての利用など、新たな活用方法について幅広く検討していく。</p> <p>局が保有する土地や建物について、活用できる広さや周辺環境など個々の資産の特性に応じた活用方法を模索し、こちらから借り手に提案していくなど、積極的な活用方法を引き続き検討していく。</p>
---------------	--

施策名	5-(4) 新たな視点に立った上下水道事業の展開
目的	この施策は、「国際協力に係る情報収集と実施などの検討」及び「広域化の実施・検討」の2つの事務事業により、国際協力に係る情報収集を進め、対応可能な支援などの検討を行うとともに、広域化による事業メリット、連携の枠組み等の検討を進め、信頼される経営の確立を目指すものである。

政 策 -----> 施 策



1 評価結果（令和4年度実施事務事業）

■事務事業評価【外部評価意見等まとめ】

主要	事務事業名	自己評価結果	外部評価結果 (その他の意見)
	① 国際協力に係る情報収集と実施などの検討 【共通】	<p><b>【a評価】</b> 国際協力に係る情報収集と実施などの検討について、国際協力に係る情報収集回数を、令和4年度計画どおり「2回」実施した。 具体的な取組として、自治体水道国際展開プラットフォーム定例会議や日本下水道事業団の国際協力に関する研修会へ出席し、先進都市の国際協力・海外展開について情報収集を実施した。 また、事例報告会開催回数は、令和4年度計画どおり「2回」の実績で、達成率は100%となったため、「a」評価とした。</p>	
◎	② 広域化の実施・検討 【水道】	<p><b>【a評価】</b> 広域連携の実施・検討について、課題検討・実務講習研修会等の主催を令和4年度計画「14回」に対し、「16回」（水道12回、下水道4回）実施した。具体的な取組として、県内の事業者に対して、上下水道の技術や事務に関する講習会や研修会などを主催した。 また、広域連携の検討を、令和4年度計画「4回」に対し、「11回」（水道8回、下水道3回）実施した。具体的な取組として、水道では、県が取りまとめている「静岡県水道広域化推進プラン」策定に向け、関係事業者と協議を進め、策定作業に参画した。下水道では、県が取りまとめる「静岡県広域化・共同化計画」策定に関する検討会議に参加した。 広域連携の提案については、県に対して施策を提案したことから、令和4年度計画「提案」に対し、計画どおり成果が出ているため、「a」評価とした。</p>	

■事務事業評価【外部評価結果まとめ】

主要	事務事業名	指標		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
①国際協力に係る情報収集と実施などの検討	活動指標	国際協力に係る情報収集回数	計画値	2回	2回	2回	2回	
			実績値	2回	2回	4回	2回	
	成果指標	事例報告会開催回数	計画値	2回	2回	2回	2回	
			実績値	2回	2回	2回	2回	
		海外研究員受入れ（依頼があった場合）	計画値	/	/	実施	実施	
			実績値	/	/	実施無し	実施無し	
	達成率				100%	100%	100%	100%
	自己評価				a	a	a	a
	外部評価				/	/	/	/
	◎②広域化の実施・検討	活動指標	課題検討・実務講習研修会等の主催	計画値	/	/	14回	14回
実績値				/	/	14回	16回	
広域連携の検討			計画値	4回	4回	4回	4回	
			実績値	5回	4回	8回	11回	
成果指標		広域連携に向けての取組の件数	計画値	2件	2件	/	/	
			実績値	2件	2件	/	/	
		広域連携の提案	計画値	/	/	検討	提案	
			実績値	/	/	検討	提案	
達成率				100%	100%	100%	100%	
自己評価				a	a	a	a	
外部評価				/	/	/	/	

■施策評価

自己評価	A	<p>新たな視点に立った上下水道事業の展開について、令和3年度施策評価（令和元～3年度）は「A」評価としており、令和4年度についても、施策を構成する全ての事務事業で計画どおりの実施となり、引き続き成果が出ている。</p> <p>以上のことから、国際協力に係る情報収集を進め、対応可能な支援などの検討を行うとともに、広域化による事業メリット、連携の枠組み等の検討を進め、信頼される経営の確立を目指す施策の目的が達成されているため、令和4年度施策評価（令和元～4年度）は「A」評価とした。</p>
------	---	--



審議経緯

回数	開催日時・開催場所	議 事 等
第2回	令和5年7月21日(金) 13:30~16:30  上下水道局 庁舎7階 71会議室	<b>【事業評価】</b> ・ 令和4年度施策等の進行管理 ①外部評価方法の決定 ②事務事業の自己評価説明・外部意見聴取
第3回	令和5年9月11日(金) ~25日(月)  書面開催 ※9月8日(金) 台風13号接近に伴い書面 開催に変更	<b>【事業評価】</b> ・ 令和4年度施策等の進行管理 事務事業外部評価意見のまとめ
第4回	令和5年11月10日(金) 13:30~16:00  上下水道局 庁舎7階 71会議室	<b>【事業評価】</b> ・ 令和4年度施策等の進行管理 政策自己評価説明・外部意見聴取
第5回	令和6年1月26日(金) 15:00~17:00  上下水道局 庁舎7階 71会議室	<b>【事業評価】</b> ・ 令和4年度施策等の進行管理 ①政策外部評価意見のまとめ ②評価報告書の公営企業管理者への提出

第7期 静岡市上下水道事業経営協議会 委員名簿

役職	氏 名	所 属 団 体 等
会長	すずき まなぶ 鈴木 学	龍谷大学 経営学部 教授
副会長	しおの としはる 塩野 敏 晴	静岡経済研究所 主席研究員
委員	うまい きよこ 馬 居 喜代子	市民委員
	かのう さちこ 狩野 佐知子	市民委員
	たけうち ゆうき 竹 内 佑 騎	株式会社 竹屋旅館 代表取締役
	はしもと まさこ 橋 本 正子	しずおか市消費者協会 理事
	はまだ はるこ 濱田 晴子	市民委員
	はらだ まさお 原田 正男	静岡市自治会連合会 副会長
	ほりずみ きょうこ 堀 住 京 子	地域デザインカレッジ修了生
	やすい てつや 安井 哲也	日本下水道事業団 静岡事務所長
	やまもと きみとし 山 本 公 敏	常葉大学 経営学部 准教授
	よこざわ ゆ み 横 澤 由美	市民委員
よこやま のりこ 横 山 則子	日本水道協会 研修国際部 国際課長	



---

しずおか水ビジョン 第4次中期経営計画  
評価報告書

令和6年1月  
静岡市上下水道事業経営協議会

---